



Nagomi no SATO

社会福祉法人なごみの郷

就労支援センターつばさ
グループホームなごみ・しらさぎ
相談支援センターなごみ
地域活動センターくろゆり・ハレマ
能美地域活動センターはまかぜ
能美地域活動センターはまかぜ山口分場
相談支援センターはまかぜ
のみワークポートりんく

令和 7 年度事業実績及び令和 8 年度に向けて

自 令和 7 年 4 月 1 日

至 令和 8 年 3 月 31 日

〒923-0851 小松市北浅井町 123 番地

TEL (0761) 23-7232

FAX (0761) 23-7284

<http://www.nagomi-no-sato.com>

なごみの郷の理念

理 念

なごみの郷は、「地域で普通の生活をしつつ、未来に向かって希望の道を歩むこと」を大きな目標とします。

その目標を達成するために、なごみの郷はその名の由来通り「人の輪と心が和む場」を大切にし、「一人一人が夢と希望を持って生きること」を目指して、医療・行政機関等との緊密な連携のもとに、「絶えず創意工夫を積み重ね、最善を尽くすこと」を信条とします。

基本方針

- 1 人の輪、こころの和を大切にしたサービスに努めます
- 2 一人一人の権利と尊厳を守り、個人の自律及び自立を尊重することに努めます
- 3 利用者、家族、ボランティア、地域住民と一体となつて推し進めます

発行日 令和8年6月30日

行 動 方 針

私たちは、「社会参加」を支援の中心に行動します

私たちは、「ホスピタリティの精神」を大切に行動します

私たちは、当事者の「主体性」と「対話と共感」を持って行動します

私たちは、「学び」と「実践」の両輪で行動します

なごみの郷 各施設



なごみの郷本館・就労支援センターつばさ
グループホームなごみ



グループホームしらさぎ



地域活動センター
くろゆり



地域活動支援センター
ハレマ



能美地域活動センターはまかぜ



能美地域活動センターはまかぜ
山口分場

なごみの郷のインクルージョン（包摂化）とボランティア



社会福祉法人なごみの郷から、『令和7年度事業実績及び令和8年度に向けて』をお届けいたします。法人としてのなごみの郷の概要や令和7年度の決算状況等とともに、当法人が運営しております就労継続支援B型事業・地域活動支援事業・生活介護事業・共同生活援助事業・相談支援事業・生活困窮者就労準備支援事業における令和7年度の事業実績等及び令和8年度に向けての取り組みについて、詳細に報告しております。職員一同、昨年度の振り返りを行い、新しい年度における事業改善に向けての決意表明でもあります。ご一読いただければ、幸いです。

令和7年度の嬉しい出来事：なごみの郷はその理念と基本方針に唱えていますように、メンタルヘルスボランティア（メンボラ）さんと一体となってさまざまな活動を推し進めています。メンボラさんはなごみの郷におけるインクルージョンを実現してくれている素敵な仲間と認識しています。インクルージョンとは「多様な人々が互いの違いを尊重し合い、受け入れられていると感じながら、個々の能力を発揮して組織や社会の一員として活躍できる状態、そのような状態になることを目指す」ことです。メンボラさんは押し付けがない、指示的態度的ない、包み込んでくれるような優しさがあり、且つ守ってくれるような強さを持ち合わせている、何よりも元気で朗らかなエネルギーを出している方々です。他者の気持ちを敏感にすくい取る利用者の皆さんにとって、このようなメンボラさんはインクルージョンの実現にとって大変貴重で欠かすことができない存在であると考えています。とはいうものの、メンボラの会が誕生して20年以上を経た今、会員の高齢化・減少化が進んでいることもまた事実です。昨年度は久しぶりに‘メンボラ養成講座’を主催し（後援：小松市、能美市、石川県南加賀保健福祉センター、小松市社会福祉協議会、能美市社会福祉協議会、社会福祉法人なごみの郷）、新たなメンバーを数人獲得されました。安堵しているところです。

職員と利用者一同、新たな気持ちで令和8年度のスタートを切りたいと思っております。これまでに引き続きまして、地域の皆さまをはじめ行政や関係機関等より、一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。

令和8年4月

社会福祉法人なごみの郷
理事長 北岡 和代

目 次

I 法人の概要

1 法人の沿革	1
2 施設の規模	2
3 組織・機構	3
4 関係団体の動き	4
5 職員体制	5
6 令和7年度 特記事項	6

II 支援部

《就労継続支援B型事業》就労支援センターつばさ	7
-------------------------------	---

1 事業の概要	7
2 事業実績	7
3 事業の状況	8
4 作業の概要	9
5 令和8年度に向けて	13

《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》能美地域活動センターはまかぜ

1 事業の概要	13
2 事業実績	14
3 事業の状況	15
4 作業の概要	16
5 令和8年度に向けて	19

《就労継続支援B型事業》能美地域活動センターはまかぜ山口分場

1 事業の概要	20
2 事業実績	20
3 事業の状況	21
4 作業の概要	21
5 令和8年度に向けて	23

《共同生活援助事業（介護サービス包括型）》グループホームなごみ・しらさぎ

1 事業の概要	24
2 年代別利用者内訳	24
3 利用状況	25
4 主な日中の生活の場	25
5 利用者支援等	25

6 事業の状況	2 8
7 令和8年度に向けて	2 9

《相談支援事業》相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかぜ

1 事業の概要	2 9
2 事業実績（相談支援センターなごみ）	3 0
3 事業の状況	3 0
4 令和8年度に向けて（相談支援センターなごみ）	3 1
5 事業実績（相談支援センターはまかぜ）	3 1
6 事業の状況	3 2
7 令和8年度に向けて（相談支援センターはまかぜ）	3 3

《生活介護事業、地域活動支援事業、ひきこもり事業》

地域活動センターくろゆり（ハレマ含む）

1 事業の概要	3 3
2 事業実績	3 4
3 事業の状況	3 6
4 令和8年度に向けて	3 6

《生活困窮者就労準備支援事業》のみワークポートりんく

1 事業の概要	3 7
2 事業実績	3 8
3 事業の状況	3 9
4 令和8年度に向けて	3 9

《地域交流推進事業》

1 地域交流センター及び地域交流室の活用	4 0
2 ボランティアに関すること	4 0
3 第24回なごみ祭	4 0

III 令和7年度の決算状況

1 資金収支計算書	4 1
2 事業活動計算書	4 2
3 貸借対照表	4 3

IV 各種委員会報告

1 職場内研修委員会	4 4
2 虐待防止等委員会	4 4
3 実習	4 4

V その他

1	研修・各種団体会議への出席.....	4 5
2	関連団体への参加	4 6
3	なごみの郷苦情解決第三者委員.....	4 8

I 法人の概要

1. 法人の沿革

年	月	摘 要
平成 10	12	「社会福祉法人なごみの郷」設立発起人会発足
11	8	社会福祉法人なごみの郷設立 初代理事長 廣川 俊雄氏 就任
12	4	なごみの郷本館新築 精神障害者社会復帰施設「地域生活支援センターなごみ」 「福祉ホームなごみ」「通所授産施設つばさ」開設
13	3	二代目理事長 西出 外次氏 就任
14	4	精神障害者「グループホーム弥生荘」開設
	10	ホームヘルプサービス事業開始
15	4	なごみの郷敷地内にしらさぎ館新築 精神障害者「グループホームしらさぎ」「地域交流センターしらさぎ」 小規模通所授産施設「フレンズくろゆり」開設 レスパイトケア事業・精神障害者地域生活サポート事業開始
	8	三代目理事長 木村 正行氏 就任
18	10	「福祉ホームなごみ」より障害福祉サービス事業「ケアホームなごみ」 に事業変更・経過的地域生活支援センター事業（小松市委託）開始 「地域生活支援センターなごみ」より 相談支援事業（小松市委託）に事業変更
19	3	相談支援事業（小松市委託）廃止
	4	「地域活動支援センターくろゆり」「相談支援センターなごみ」 「ホームヘルプステーションなごみ」開設 「通所授産施設つばさ」より「就労支援センターつばさ」に事業変更
	5	「グループホームしらさぎ」より 「グループホームケアホームしらさぎ」に事業変更
20	11	「地域活動支援センターくろゆり」より「地域活動センターくろゆり」 に事業変更・「相談支援センターなごみ」増築
	12	「地域活動センターくろゆり」改築
21	8	四代目理事長 水腰 久美子氏 就任
	10	法人設立 10 周年記念式典開催
22	4	「グループホームケアホームしらさぎ」より「ケアホームしらさぎ」 に事業変更
	8	五代目理事長 小杉 修氏 就任
24	3	「能美地域活動センターはまかぜ」を就労支援センターつばさの サテライト事業所として開設
	8	六代目理事長 荒田 稔氏 就任

25	4	「能美地域活動センターはまかぜ」を就労継続支援（B型）事業と地域活動センターとして開業
	8	「相談支援センターはまかぜ」を能美地域活動センターはまかぜ内に開設
26	4	「ケアホームなごみ」「ケアホームしらさぎ」を「グループホームなごみ」「グループホームしらさぎ」に事業変更
30	4	「地域活動センターくろゆり」自立（生活）訓練事業を休止
	11	「ホームヘルプステーションなごみ」居宅介護事業を休止
令和 1	8	「能美地域活動センターはまかぜ山口分場」を能美地域活動センターはまかぜのサテライト事業所として開設 相談事業所「相談支援センターはまかぜ」を山口分場内に移転
2	4	「能美地域活動センターはまかぜ山口分場」を就労継続支援（B型）事業所と地域活動センターとして開業
	8	「グループホーム弥生荘」共同生活援助事業を廃止
	11	「地域活動センターくろゆり」自立（生活）訓練事業を廃止
3	7	「相談支援センターはまかぜ」自立生活援助事業を開業
4	4	「のみワークポートりんく」を開業して就労準備支援事業（能美市委託公益事業）を開始
	10	「ホームヘルプステーションなごみ」を廃止
6	4	七代目理事長 北岡 和代氏 就任
		相談支援センターなごみに小松市から委託を受けてひきこもりステーション事業（相談）を開始
	10	地域活動センターくろゆりに小松市から委託を受けてひきこもりステーション事業（居場所）、地域活動支援センター機能強化Ⅲ型事業を開始
7	3	地域活動支援センターハレマを開所

2. 施設の規模

社会福祉法人なごみの郷		〒923-0851 小松市北浅井町 123 番地
・敷地面積	2,415.00 m ²	
・建物 3 棟総床面積（構造・面積 木造一部 2 階建て）	1,017.24 m ²	
グループホームなごみ	306.19 m ²	・就労支援センターつばさ 348.85 m ²
相談支援センターなごみ他	160.83 m ²	・グループホームしらさぎ 89.43 m ²
地域交流センターしらさぎ	104.34 m ²	・ポンせん加工室 24.00 m ²
地域活動センターくろゆり		〒923-0863 小松市不動島町 甲 22 番地
・敷地面積	168.59 m ²	
・建物床面積（構造・面積 木造 2 階建て）	207.22 m ²	

地域活動支援センター ハレマ	〒923-0863	小松市不動島町甲 21 番地
・敷地面積		175.85 m ²
・建物床面積（構造・面積 木造 2 階建て）		127.36 m ²
能美地域活動センターはまかぜ	〒929-0105	能美市中ノ江町と 104-1 番地
・敷地面積		1,817.50 m ²
・建物床面積（構造・面積 鉄筋コンクリート 1 階建て）		389.18 m ²
	倉庫	32.17 m ²
能美地域活動センターはまかぜ山口分場	〒929-0126	能美市山口町ホ 17-1 番地
・敷地面積		2,311.87 m ²
・建物床面積（構造・面積 鉄筋コンクリート 1 階建て）		519.00 m ²
	機械室他	113.78 m ²

3. 組織・機構

(1) 令和 8 年度法人の役員等名簿（令和 8 年 4 月 1 日現在）

役 員

理事長 北岡 和代	理 事 飯田 清美	理 事 田中 浩二
理 事 山下 順子	理 事 高田 茂	理 事 瀬戸 俊文
監 事 三上 紀美恵	監 事 山本 周	—

以上理事 6 名 監事 2 名

(2) 顧 問

木崎 馨山	荒田 稔
-------	------

以上 2 名

(3) 評議員選任解任委員

監事委員 三上 紀美恵	外部委員 新谷 千代子	外部委員 高見 京子
事務局委員 瀬戸 俊文	—	—

以上 4 名

(4) 評議員

松内 重雄	樫村 優紀世	倉 一 正	中西 明代
本多 和浩	井村 千里	石浦 保子	—

以上 7 名

(5) 苦情受付

苦情解決第三者委員	相上 律子	飯田 清美	
苦情解決責任者	高田 茂	苦情受付担当者	瀬戸 俊文

4. 関係団体の動き

年度	摘 要
昭和 48 年	小松保健所（現南加賀保健福祉センター）管内精神障害者家族会「くろゆり会」発足
昭和 63 年	小松市不動島町に小規模作業所「くろゆり作業所」開設
平成 5 年	ボランティアグループ「くろゆり作業所を支える会」発足
平成 6 年	小松保健所のメンタルヘルスボランティア講座始まる。 ボランティアグループ「メンタルフレンズつばさ会」発足 小松市末広町に第 2 作業所「ワークハウスつばさ」開設
平成 7 年	小松能美こころの街づくり推進協議会開催 ボランティアグループ「みのり会」発足
平成 8 年	「ワークハウスつばさ」小松市小馬出町に移転 ボランティアグループ「こだま会」発足
平成 9 年	「小松能美精神障害者社会復帰施設法人設立準備の会」発足
平成 10 年	ボランティアグループ「ハーモニー」発足
平成 11 年	ボランティアグループ「ののはな」発足
平成 12 年	小松能美メンタルヘルスボランティア連絡協議会発足
平成 14 年	ボランティアグループ「かよう会」発足
平成 15 年	ボランティアグループ「のぞみの会」発足
平成 16 年	メンタルヘルスボランティア 8 グループを統一して、「小松能美メンタルヘルスボランティア友の会」として発足
令和 2 年	「小松能美メンタルヘルスボランティア友の会」を 「メンボラ ToMo の会」に改名する。

職 員 体 制

令和8年4月1日現在

所 属 及 び 職 名		氏 名	備 考		福祉関係有資格	
理 事 長		北岡 和代			医学博士・看護師	
所 長(施設長)		高田 茂			精神保健福祉士・社会福祉士	
部 長		瀬戸 俊文			精神保健福祉士・社会福祉士	
部 長(管理者)		中村 有紀			精神保健福祉士・保育士	
次 長(管理者)		堂前 美春			精神保健福祉士	
本 部 部 長		瀬戸 俊文	兼 GH生活支援員及び世話人		精神保健福祉士・社会福祉士	
なごみ・しらさぎ グループホーム	管理者・サービス管理責任者		高田 茂	兼務	精神保健福祉士・社会福祉士	
	共同生活援助	生活支援員	富樫 尚子		介護福祉士	
			瀬戸 俊文	兼 本部部長及びGH世話人	精神保健福祉士・社会福祉士	
			北岡 和代		看護師	
			村中 豊			
		世 話 人	武田 春江			
			村井 浩		精神保健福祉士	
	世話人(遅番専属)	打越 賢一		17:00～20:30 交代勤務(日曜～土曜)		
小松市シルバー人材センター						
以下の就労B型3事業所 管 理 者		中村 有紀	兼 のみワークポートりんく管理者		精神保健福祉士・保育士	
就 労 支 援 セ ン ター	就 労 継 続 支 援 B 型	サービス管理責任者	南出 真里江		社会福祉士・介護福祉士	
		生活支援員	八田 竜一			
		職業指導員	西東 健太			
			奥村 恭子			
			土山 信英	兼 なごみ相談支援専門員	社会福祉士・介護支援専門員	
		職業指導員(食事提供)	杉森 早希			
平口 美幸						
能美地域活動センター	はまかぜ	サービス管理責任者	山口 充子		介護福祉士・保育士	
		生活支援員	山崎 菊代			
		職業指導員	北出 章代		介護福祉士	
		野口 涉				
	地域活動支援センター	就労継続B型事業と兼務				
	山口分場	サービス管理責任者	江端 安代		介護福祉士	
		生活支援員	北島 千裕		精神保健福祉士・社会福祉士	
		職業指導員	前田 信夫			
北村 憲一						
地域活動センター	くろゆり	管理者・サービス管理責任者	松本 里絵	兼務	精神保健福祉士	
		生活介護	三宅 奈津子		精神保健福祉士	
			山口 智恵美		保育士	
			鳥毛 こずえ			
			三吉 晃平			
			宮腰 茜			
			吉田 裕美子		看護師	
	看 護 師					
地域活動支援センター	生活介護事業と兼務					
地域活動支援センターハレマひきこもりステーション	相 談 員	相 談 員	西本 美由紀	兼 なごみ主任相談支援専門員	精神保健福祉士・社会福祉士・介護支援専門員	
		益本 克彦	発達支援	教諭		
		居場所支援員	くろゆり職員 兼務			
相談支援センターなごみ	管 理 者	中西 雅恵	兼 相談支援専門員	精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士・主任介護支援専門員		
	相談支援専門員	桑原 千恵		精神保健福祉士・社会福祉士		
		西本 美由紀	兼 主任相談支援専門員、ひきこもりステーション相談員	精神保健福祉士・社会福祉士・介護支援専門員		
		土山 信英	兼 就労支援センターつばさ職業指導員	社会福祉士・介護支援専門員		
相談支援センターはまかぜ	管 理 者	堂前 美春	兼 主任相談支援専門員	精神保健福祉士		
	相談支援専門員	金谷 葉月	兼 自立生活援助事業サビ管	精神保健福祉士・社会福祉士・公認心理師		
	自立生活援助事業 地域生活支援員	堂前 美春		精神保健福祉士		
生活困窮者等就労準備支援事業のみワークポートりんく	管 理 者	管 理 者	中村 有紀	兼就労B型3事業所管理者	精神保健福祉士・保育士	
		就労準備支援員	東 聡美		精神保健福祉士・社会福祉士・公認心理師	
			石井 康子		介護福祉士・介護支援専門員・教諭	

令和7年度 特記事項

固定資産の取得

種目	取得月	品目	取得場所	金額（円）
車両運搬具	令和7年4月	業務用軽乗用車更新	相談はまかぜ	739,000
器具及び 備品	令和7年5月	シュレッダー更新	なごみ共有	319,000
	令和7年6月	憩いの間エアコン更新	GHなごみ	198,000
	令和8年2月	居室エアコン更新	GHなごみ	154,000
		面談室エアコン	なごみ共有	115,500

Ⅱ 支援部

《就労継続支援B型事業》 就労支援センターつばさ

1. 事業の概要

就労支援センターつばさは令和2年4月に就労移行支援事業を廃止して以降、就労継続支援B型事業所（定員20人）として生産活動の充実を図り、また、それまでに培ってきた就労支援スキルと各関係機関との繋がりを駆使し、一般就労を目指す方への支援を積極的・継続的に行ってきた。近年は福祉事業所への通所が初めてだという方が増えており、様々な作業を通して利用者の適正作業を把握し、個別の面談を細やかに行う中で一人ひとりの夢と希望にあわせた自己実現を図っている。今後も、利用者の顕在的・潜在的なストレングスを発掘し、未来に夢が持てる就労・生活支援に努める。

（サービス内容）	心身面で一般就労が難しい方や、一般就労の経験はあるが体力や年齢から企業等に雇用されるのが困難な方、一定年齢に達している方に対し、通所による就労や生産活動の機会を提供する。 また、一般就労に意欲がある利用者に対して、必要な知識の修得や能力向上をめざし、個々に応じて支援する。
（定 員）	20人
（利用料）	673円／日（個人の所得によって上限がある）
（サービス提供日時）	毎週月～金曜日（午前8時30分～午後5時まで） 販売会、行事等により土・日・祝日有り
（利用期間）	なし
（作業内容）	菓子製造、喫茶、厨房、委託事業、エコステーション管理
（その他）	昼食・送迎サービス

2. 事業実績

（1）登録者の推移

①人数

単位：人

利 用 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労継続（B型）（定員20人）	30	30	31	32	31	31

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	前年度
31	31	31	31	30	29	368	31	32

②市町村登録者数

単位：人

市町村名	小松市	能美市	加賀市	福井市	合 計
延 人 数	303	14	3	1	321
構成比率	94.3%	4.4%	0.9%	0.3%	100%

③年代別登録者数（令和 8 年 3 月 31 日現在）

単位：人

年 齢	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～	計
男 性	0	2	3	0	4	7	16
女 性	0	2	2	5	2	4	15
計	0	4	5	5	6	11	31

(2) 延利用者・利用率の推移

就労継続支援（B型）事業

開所月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
延利用者（人）	313	312	320	313	244	310
開所日数（日）	21	21	22	25	19	22
稼働率	74.5%	74.5%	72.5%	62.5%	64.0%	70.5%

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
328	277	284	282	259	297	3,539	294.9
24	19	21	22	18	21	255	21.3
68.0%	72.5%	67.5%	64.0%	76.0%	74.5%	70.0%	

(3) 平均工賃の推移

単位：円

支給月	4 月	5 月	6 月	特別賞与	7 月	8 月	9 月
総支給額	135,430	99,540	112,890	433,300	108,679	100,051	134,455
平均工賃	5,643	4,147	4,181	14,941	3,881	4,002	4,802
支給人数	24 人	24 人	27 人	29 人	28 人	25 人	28 人

10 月	11 月	12 月	年末賞与	1 月	2 月	3 月	年度平均
124,159	126,562	127,898	229,600	85,590	140,950	135,600	
4,434	4,520	4,568	7,917	3,058	4,860	5,034	5,186
28 人	28 人	38 人	29 人	28 人	29 人	28 人	27 人

3. 事業の状況

- ・利用者の高齢化により、細かな作業や継続して集中する必要のある作業に携われる方が減ってきた。また、長年いらっしゃる利用者は作業が固定しており、新たな作業に空きが出てもなかなか埋まらない現状がある。高齢化による作業のしづらさについては県リハビリテーションの作業療法士と連携し、環境面を整えているところである。また、長期にわたり作業枠が空いている部門については、作業枠の分割や作業内容の簡素化など工夫を凝らしながら募集をかけている。
- ・令和 7 年度は見学者 20 名、体験者 10 名、新規登録者 6 名、退所者 5 名であり、退所者のうち 1 名は一般就労した。ただ、1 日の平均利用人数は 14 名程に減少した。要因として、作業メインではなく居場所を求めて通所される方の増加（週 1 利用、不定期利用など）及び毎日利用していた方々のステップアップ退所が考えられる。その

ため平均工賃も減少をたどる一方であり、居場所と工賃の確保をどう両立するのが、課題である。また、居場所よりも作業をつばさに求めている方にマッチする作業と作業の出し方を職員の業務内容の整理と併せて考え、利用者がつばさに来ている意味を職員一人ひとりが知り、それに見合った支援を工夫できるようにする。

(文責：中村)

4. 作業の概要

1) 菓子製造販売部門

<令和7年度の主な動き>

昨年度に続きお米の価格の高騰に伴い米価格も900g500円から700円、玄米の価格を1kg500円から750円と単価を上げた。全国的な米の高騰に伴い、持ち込みの加工の注文が少なくなった。菓子作業担当者については積極的な声掛けを利用者に対し行うことで利用者数が増えた。

令和6年度同様、相手企業と話し合いを重ねたことにより、コマニー株式会社、公立小松大学、小松市すこやかセンターと定期的な販売会を継続することができた。さらにボニジュール根上苑、自生園とも話し合いをすすめたことで定期的に販売を行うことが出来るようになった。

新商品としてブロック状のいりがしを作るため、9月に新潟の黒津ポン菓子本舗さんに見学に行きいりがしを固める技術を学んだ。令和8年度中に商品化することを目標にしている。

一昨年出来なかった綿菓子の臨時営業届(5年分)を申請し、数多くの販売会でお客様に購入していただくことができた。

(1) 常設販売

販 売 場 所	販売商品
夢や、平和堂小松店、JAあぐり道の駅こまつ木場潟、JAグリーン	いりがし、ぼんせん各種
小松市社会福祉協議会	いりがし、ぼんせん各種

(2) 注文販売

企業・団体

企業・団体名	企業・団体名
コマニー株式会社	ボニジュール
メンボラ ToMo の会	自生園

今年度は上記の企業・団体の他、蓮代寺校下社会福祉協議会、能美市社会福祉協議会、能美市国際交流から注文があった。

(3) 企画販売

いりがし、雛いりがし等 注文(いりがし、ぼんせんべい、菓子セット)

保育園、学童の注文件数に変化はないが1件当たりの注文数が減少したので来年度はブロック状のいりがしを商品化させてより多く注文をしてもらえるようにしていきたい。

＜令和８年度に向けて＞

いりがしの売上が低迷する夏の売上を伸ばすことを踏まえ、綿菓子の販売を積極的に行っていく。昨年度綿菓子を販売できないイベントがあり販売できるものが他にもあればいいと思い夏場にかき氷もイベントで販売していけるようにしていく。つながりのある保育園等に営業を行い、新たな販路を開拓し売上を伸ばしていきたい。新商品としてブロック状のいりがしを商品化し菓子の売り上げを伸ばしていきたい。パッケージや袋も今までのデザインとは違う新たなものを見つけいり菓子の大きな変化を起こしていきたい。菓子作業の担当者は昨年度に比べ担当者は増えたが未だに空きがある状態が続いている。引き続き作業を担当してもらうために声掛けを続けたり、ブロック状のいりがしに関係する新たな作業を生み出したりし、新たな担当者を探していきたい。

（文責：西東）

２）ダイニング部門

・喫茶

＜令和７年度の主な動き＞

令和７年度は喫茶の営業日に休むことなく、営業できるよう利用者に対し積極的にお知らせを行い、当日急遽担当者が休んだ際も臨時で募集をすることで喫茶を臨時休業する日が殆どなく営業することが出来た。その為、売上も 775,827 円となり前年度よりも伸ばすことが出来た。又、目標にしていた喫茶の作業日誌を作成し、作業担当者が記入することで、作業を把握し主体的に関わることが出来るようになった。但し、担当者の利用日の変更等の理由で作業担当者を２名にして営業することについては、部分的に達成できていないところもあった。プリンについても新たな味のプリンを製造販売することで順調に売上を伸ばしている。

＜令和８年度に向けて＞

令和８年度は材料の高騰に伴い、メニュー内容、価格などの見直し、売上を伸ばし担当者の工賃を伸ばしていく。又、利用者が主体的に作業に取り組みモチベーションを上げていく為に、喫茶担当者の意見を聴き反映していきたい。部分的に担当者が１名となっている時間帯もある為、積極的にお知らせ、声掛けを行い、２名体制での営業が出来るように取り組む。

（文責：西東）

・シフォンケーキ

＜令和７年度の主な動き＞

小松市・能美市社会福祉協議会・夢や他、今年度新たに、めぐみの里や能美市等に定期販売を行うことが出来るようになり、シフォンケーキを購入したいとの声が多く、毎回完売する人気商品となっている。製造数が多くなることで作業量・作業時間が増え、利用者の体力以上に注文が入り職員が製造、袋詰めを担当することもある。季節限定の味のシフォンケーキを店舗限定で販売することもできた。好評ではあるがシフォンケーキ自体がとてもデリケートで柔らかいため、袋詰めの際、形が歪んだシフォンケーキは袋詰めせず、一口サイズにカットし店舗で販売する対応を行う事でロスをなくす取り組みを行った。又、運搬時や販売時の陳列にも丁寧に扱わないと形が崩れてしまい、見栄えが悪くなり売れ残ることがあった為、商品の形が崩れないよう配慮した運搬や陳列を行っている。

＜令和８年度に向けて＞

利用者の作業として出来る最大製造数以上の注文が入ること、利用者の少ない日に多く製造することで職員の負担が多くなる日もある為、多く注文が入った時は利用者が２人体制にできるよう積極的な声掛けの他、作業時給を上げ利用者の作業意欲を上げ全ての作業日が２人体制となるよう取り組みたい。また、材料費のコストが高騰している為、販売価格

を工賃・材料費に見合った価格にしてい。店舗でも商品の陳列方法の改善やポップを作成しお客様に見ていただけるようにしていきたい。
(文責：西東)

・給食配食弁当

作業概要

給食・配食弁当の準備、提供

- ・株式会社栄食で調理された調理品の盛付
- ・容器洗浄
- ・のみふれあい弁当の参画

栄養管理

- ・栄養だよりの発行
- ・身体測定の実施

衛生管理

- ・施設内清掃
- ・食品衛生講習会の実施
- ・害虫駆除の実施

<令和7年度の主な動き>

4月半ばに管理栄養士が長期入院となり、5月に管理栄養士不在のまま食事提供を試みたが、調理担当職員の負担が大きいことや栄養計算等の食事提供加算に係る業務の煩雑さから8月に外部委託による昼食提供へと舵を切ることとなった。厨房の見通しがつくまで地域への提供を休止しており、そのため令和6年度売上数と比較すると15～20食／日程度、食数が減少した。ただ、法人内での売上数は令和6年と比べても平均30食／日で大幅な減少はなかった。

<令和8年度に向けて>

10食／日増を目標にすることで、利用者に少しでも多くの時間厨房作業に携わって頂き工賃UPを図る。また給食アンケートではなく昼食アンケートをとることで給食を食べない理由や食生活の把握を図り、実態に即した栄養だより発行と株式会社栄食との話し合いを進める。
(文責：中村)

昼食販売実績推移表

単位：食

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
給食	1,318	1,437	—
館内(弁当)	4,434	4,390	3,679
くろゆり	195	716	438
はまかぜ	304	143	177
山口分場	509	466	201
夢や	30	15	—
その他(一般)	3,064	3,662	314
合計	9,854	10,829	4,809

3) 委託作業部門

<令和7年度の主な動き>

・小松市からの委託

令和7年5月：ふれあい福祉課から小松市内の246町内会への数種類の書類、ポスター、世帯数分のパンフレットを仕分けて紐でしばる作業を請け負った。

・企業からの委託

引き続き、沖田産業（株）からコード袋詰め作業、（株）九谷陶泉から九谷焼転写貼り作業、（株）キミトノートより黒にんにくの玉割り作業を請け負った。

委託作業をメインにしていた利用者の何名かは菓子、厨房や喫茶の作業へ一部移行することが出来た。他の利用者は菓子や厨房、喫茶に移ることが作業能力からみると難しく、委託作業をメインにしている。

・古紙リサイクルステーション

昨年度よりマナー違反の対応を強化していくため、小松市の環境推進課と連携し見回り、ポスター掲示、等の他、マナー違反防止の監視カメラを年度末に設置する対策をしたが、あまり効果は見られず、依然としてエコステーションに持ち込めないゴミ等を持ち込みがある。トラック等で一度に大量に古着、段ボールを持ち込まれる方もいるためエコステーションの容量を超え臨時で回収所を持って行く機会もあった。また、鍵の不具合が発生し、早めに小松市へ点検を依頼した。鍵の摩耗によるもので、新しく鍵を追加した。

古紙リサイクルステーション取扱量

単位：kg

種 類	令和6年度	令和7年度
段ボール・牛乳パック	6, 990	6, 430
新 聞	4, 900	4, 740
雑誌・チラシ	11, 700	11, 540
合 計	23, 590	22, 710

・リサイクル分別

なごみの郷館内の缶・ビン・ペットボトルを週2回分別し、月1回「サービスセンターあしだ」へ運搬している。

<令和8年度に向けて>

- ・小松市より委託されている“古紙リサイクルステーション3号店”の利用マナーを小松市と連携して周知徹底を図りながら運営管理を行う。在留外国人や障害を持っている方等、どなたでも分かるような表記をし、見やすい看板を小松市と連携し作成していく。
- ・つばさの環境にあった作業を提供しつつ、力がついてきた利用者には菓子や厨房、喫茶などの他の作業に移行できるように引き続き支援する。
- ・高齢による能力低下や精神状態によって集中力がなく精密な作業ができない利用者に対しては作業だけでなく、能力の維持をするために運動プログラムなどを取り入れる。
- ・継続的に利用者が安定して通所し作業の質向上と従事日数が増えていくよう支援する。
(文責：杉森)

令和 7 年度作業部門別収支内訳書

科目名	給 食	喫 茶	菓 子	アクリル たわし他	リサイクル 分別	エコステ 清掃	その他の 委託	合計
収入の部計①	2,739,418	775,827	1,006,252	2,738		600,000	191,943	5,316,178
前年度収入	5,666,440	738,372	1,052,267	14,485		600,000	208,384	8,279,948
材料費								
材料仕入高	1,805,180	245,912	333,252	7,431			1,311	2,393,086
労務費								
利用者工賃	587,307	310,415	354,301	51,033	47,500	315,567	431,686	2,097,809
経費								
福利厚生費	22,385							22,385
消耗品費	86,730	21,893	58,488			16,758	11,265	195,134
水道光熱費	100,374		41,571					141,945
雑 費	330		4,730	990				6,050
租税公課	241,268	41,976	44,707	356			45,774	374,081
支出の部計②	2,843,574	620,196	837,049	59,810	47,500	332,325	490,036	5,230,490
前年度支出	5,475,362	812,557	1,218,434	54,477	51,109	351,299	413,127	8,376,365
余剰金①－②	△104,156	155,631	169,203	△57,072	△47,500	267,675	△298,093	85,688

5. 令和 8 年度に向けて

基本方針

- ・「安心→自信→回復」を目指して、利用者ニーズに応える事業活動を進めます。
- ・共生・共助の地域づくりに努め、地域に開かれた事業所としての取り組みを行います。

重点実施事項

- ① 利用者の自己実現の為、作業や日々の会話の中で安心が自信に繋がる声掛けと仕組み作りに取り組みます。
- ② 一人ひとりに関心を持ち、それぞれの歴史や大切にしているものをしっかりきき取り、これからの希望になり得るものを共に考え、チームで共有します。
- ③ 地域課題の発見に努め、地域の一員としての役割を担うことで、施設の意義・障害への理解を深めていけるような活動に取り組みます。

(文責：中村)

《就労継続支援 B 型事業、地域活動支援センター事業》
能美地域活動センターはまかぜ

1. 事業の概要

はまかぜは、就労継続支援 B 型事業（定員 20 人）・地域活動支援センター事業（定員 10 人）を行う事業所として、14 年目を向かえた。利用実績の動きとしては、地域の就労サービス（他の A 型、B 型）の選択肢の増加により移行される方や、心身の体調面の不調や低下により就労から遠ざかる方などがみられ、利用実績は減少ぎみとなっている。就労作業は、印刷を中心に既存作業の売上げは、伸びこそ多くはないが安定した売上げを継続できた。ま

た一昨年から始まった、道路工事用の看板製作の請負は、一年を通じて仕事が入り工賃向上につながった。その他、地域でのイベントや販売会などは積極的に参加し、物販と社会参加を行うことができ、地域の方々との交流する機会を多く持てた。

1) 就労継続支援B型事業

(サービス内容)	心身面で一般就労に困難さを抱える方に福祉サービスとしての就労・生産活動などの機会を提供し、意欲のある方には一般就労に向けての必要な支援をする。
(定 員)	20人
(利用料)	〔1割負担額〕1日758円（個人所得によって上限あり）
(利用期間)	なし
(作業内容)	印刷業務：名刺、年賀状、機関誌、チラシ類、封筒 等 制作業務：道路工事用の看板製作、ステッカー製作、マグネットシート製作、エコプラランター製作 等 内職業務：梱包、箱作業、封詰め作業、シール貼り作業 等 自主製品：大麦ご飯の素、ぼち袋、手芸品 等 施設外就労：清掃作業
(その他)	昼食、送迎サービス

2) 地域活動支援センター事業

(サービス内容)	心身面で日常生活に不安を抱える方に居場所を提供し、生活相談と創作や余暇活動などへの参加を通して、その方らしい地域生活が送れるように支援する。
(定 員)	10人
(利用料)	〔1割負担額〕 3時間以下 218円 3時間を超えて4時間以下 273円 4時間を超えて5時間以下 327円 5時間を超えて6時間以下 381円 6時間を超えた場合 435円
(利用期間)	なし
(内 容)	生活相談、創作・余暇活動（パソコン、レク行事〔カラオケ食事会、散策等〕）、生産活動、又ほっと一息の居場所として活用
(その他)	昼食、送迎サービス

2. 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

単位：人

利 用 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
就労継続支援 (B 型)	19	18	18	18	18	18
地域活動支援センター事業	1	1	1	1	1	1

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	月平均
17	17	18	18	18	18	215	17.9
1	1	1	1	1	1	12	1

②市町村登録者数（令和 7 年 3 月 31 日現在） 単位：人

市町村名	能美市	小松市	その他	合 計
延 人 数	108	95	12	215
構成比率	50.2%	44.2%	5.6%	100%

③年代別登録者数（令和 7 年 3 月 31 日現在） 単位：人

年齢	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～	計
男性	0	0	3	3	4	1	11
女性	0	2	2	1	1	1	7
計	0	2	5	4	5	2	18

（2）延利用者・利用率の推移

就労継続支援 B 型事業

単位：人

開 所 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
延べ人数（人）	195	175	190	199	176	187
開所日数（日）	23	22	22	24	21	22
稼 働 率	42.4%	39.8%	43.2%	41.5%	41.9%	42.5%

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
195	149	180	180	172	207	2,205	183.8
24	20	23	21	21	21	264	22.0
42.0%	41.5%	41.0%	35.0%	35.5%	39.0%	41.6%	

（3）平均工賃の推移

単位：円

支 給 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
総支給額	218,650	139,440	178,120	179,030	147,260	176,160	167,020
平均工賃	15,616	9,960	13,702	13,772	9,817	11,744	11,135
支給人数	14 人	13 人	13 人	13 人	15 人	15 人	15 人

特別賞与	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年度末賞与	年度平均
300,060	185,350	231,910	168,760	153,780	187,880	870,100	
20,004	13,239	15,461	10,548	9,611	11,743	54,381	18,394
15 人	14 人	15 人	16 人	16 人	16 人	16 人	15.8 人

3. 事業の状況

令和 7 年度の新規登録者は 1 人、登録終了者は 2 人（自宅療養 1 人、A 型就労 1 人、）であった。今年度もステップアップでの就労移行が出来た方はおられたが、家庭の事情、心身の体調不良による療養を余儀なくされる方がみられた。（文責：山口）

4. 作業の概要

1) 印刷部門

<令和7年の主な動き>

- ・名刺—前年度より売上は伸びた。これは能美市民生委員の3年に1度の大口受注を受けたことによるものと、それ以外においても1割程度の伸びがあった。市役所や病院などの再注文を中心に新たに注文をいれてくださる職員の増加があった。営業活動はそれほど行えなかったが、個人の紹介や繋がりから新規顧客も増えた。一度注文をしていただければ今後も継続して注文があることが予想されるため、個別の要望にも丁寧に対応し迅速に作成、納品できるように行った。
- ・年賀状—前年度と比べ注文件数が10件程度減少した。常連の方からの注文がほとんどで、地域の方からの温かい支えをいただいている。しかしながら加速する年賀状離れの影響を受け、継続される顧客のほとんどが枚数を減らすなど継続して注文するか悩まれている方が多かった。新規獲得は難しい中、宛名の印刷も請け負うなどの対応も行った。またカタログ製作においては、利用者の方が鉛筆から描いていることを知る人が少なく、下書きから鉛筆を取って描きデジタル加工していること周知した。構想段階から利用者と干支について語り合い、それぞれに「午」について思う気持ち、表現した「午」が出来上がっていた。
- ・自主製品—ポチ袋、しおり、カード、シール、ラッピング袋と展開した。利用者からの発案をいただき試行錯誤を職員と共に繰り返し、より良い品を届けたいという気持ちで、意欲的に取り組み販売することができた。また、新商品を作ったということで、ご家族の方も喜ばれ、利用者の意欲的な姿がご家族の安心にも繋がっていった。販売会では手に取ってくれる人も多く購入される方もいた。その都度、はまかぜオリジナルのデザインということをアピールした。しかし季節の商品を意識して制作を行ったが、発案から発売までに時間を要したため販売期間が短かった。
- ・他印刷—能美市より封筒印刷、日本赤十字社献血粗品、パープル・オレンジリボン作成、認知症サポートフォルダー作成、生活困窮者・DV相談カード作成、つながるマップ作成、おしごと発注マップ作成、みんなの街フェスチラシ作成など、川北町より封筒印刷、自殺予防啓発チラシ・粗品作成など、能美市社会福祉協議会より、関係団体より、メンボラ ToMo の会会報、小松市特別支援教育振興会機関紙、北浅井町公民館報、蝶屋福祉だより、小松市理容組合カレンダーカード作成など、なごみの郷からの、概要・封筒印刷、個人様よりポスター、ポストカード作成の注文などをいただいている。

項 目	令和6年度	令和7年度	項 目	令和6年度	令和7年度
年賀状	8,156枚	6,621枚	北浅井町公民館報	7,515部	7,515部
名刺	16,100枚	18,715枚	販促カード	3,250枚	3,630枚
ぼち袋・しおり	267個	368個	封筒各種	40,700枚	21,815枚
チラシ・機関紙	9,493部	12,320部	なごみの郷概要	100部	100部
川北町自殺予防粗品	2,000個	2,000個	なごみ通信	1,100部	2,210部

＜令和8年度に向けて＞

通年通して注文がある名刺や封筒印刷に力をいれていきたい。作業工程は比較的に多くの利用者が携われる。とくに封筒印刷は安定した作業量が提供でき工賃アップにも繋がる。近隣他市町や企業などからも注文が獲得できるよう営業活動を行っていきたい。

年賀状は減少傾向とはいえニーズもまだあり年賀状を続けるお客様をイメージしながら、利用者一人ひとりの思いに寄り添い思いを表現できるような制作を行いたい。

新規の印刷を模索し、主力な分野を開発したい。デザインやイラストなどをPC（タブレット含む）にて操作する技術、一般的なパソコン技術を提供し就労を通じて少しずつスキルアップを行い、一般就労へのステップアップを視野に入れたスキル向上を行いたい。また誰もが行える印刷作業を増やし、充実した時間と安心して通える場所としていきたい。（文責：北出）

2) 内職部門

＜令和7年の主な動き＞

・河村（株）

菓子の箱折り作業を中心に行った。意欲的に取り組む方も多く定番の作業であったが、資材等の高騰により商品のラインナップも変更になり、受注量は少なくなっている。

・（株）明月堂

バームクーヘンのシール貼り、箱折り作業を中心に行った。前年の取り組みが評価されシール貼りの他に箱折り、検品、箱詰め、のし掛けなど新たな作業が加わり、作業量も増えた。これにより多くの利用者が携わることができる定番の作業となった。

・（株）北村紙器

箱折りや仕切り折り作業を中心に行った。お中元やお歳暮など季節物の商品が多く、定期的に注文をいただいている。

・デュプロ北陸

ダイレクトメールのラベル張りや封入作業を行った。多くの方が取り組める作業として内職部門の大きな柱となっている。

・株式会社キミトノート／MAKOTO229FARM 合同会社

農福連携作業の一環としてにんにくの根切り、玉割りを中心に作業を行った。内職系の作業が苦手な方でも取り組むことが出来、コツコツと作業し時には楽しく取り組むことが出来た。

3) 制作部門

＜令和7年の主な動き＞

・NPO 法人ばんそうこう

道路工事用の看板製作やプリンターなどの木製品の加工、レンタル用品の清掃・管理、地震により漁ができなくなり廃材となる浮きを使ったエコキャラプリンター製作などの作業。身体を動かしての作業や、工具などを使うことに戸惑う声もあったが、繰り返しの作業の中で徐々に慣れ、工賃アップとして成果を出すことができた。

＜令和 8 年度に向けて＞

次年度も、各取引先との連携や協力を密にし、信頼をもっていただけるよう正確な検品や早期の納品などのニーズに応える努力をしていきたい。また、新しく取引を開始した企業も増え、作業の種類としては増やすことは出来たが、手間暇がかかる工賃が低いといったことが極端にならないよう、費用対効果を吟味し、引き続き安定した作業を確保していきたい。

（文責：山崎）

4) 物販部門

＜令和 7 年度の主な動き＞

・大麦ご飯の素

J A 小松市より「大麦ご飯の素」商品販売の業務を引き継ぎ、6 年目となり昨年度以上の売上げに向けて、個人の商店にも P R、S N S などでも発信し営業した。既存の販売場所は、道の駅こまつ木場潟、J A あぐり、J A 営農企画、能美グリーン、根上屋の販売で、その他関係企業、個人商店で販売先を増やしている。個人でも定期的に購入してくださる方もみられる。利用者の作業面は、精麦された大麦から不純物を手作業で取り除く選別作業、専用袋に入れる計量作業、商品配達や作業場を清掃する作業など、多くの工程があるため各作業で関われる利用者は多い。

菓子などに製造使用する「大麦粉」のニーズもみられ、つばさの協力を得ながらではあるが普及に努めていきたい。

項 目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
大麦ご飯の素 商品	1208.5 kg	1492.2 kg	1219.5 kg
大麦加工品のみ	230 kg	320 kg	80 kg
大麦ご飯の素 粉末			32 kg

・手芸品自主製品

定番となっている「ティッシュカバー」「まんまる巾着」「おにぎり巾着」は道の駅こまつ木場潟でも販売を開始し徐々に売上が向上している。作業に携わる利用者の技術も向上し着実にスキルアップした。今後も販売会でのお客様の声も大切にしニーズを捉えながら、また新しい商品も楽しく制作していきたい。

＜令和 8 年度に向けて＞

大麦ご飯の素作業の中でも、姉妹品として考案した少量パックの「無添加まる麦」「大麦ご飯の素お試しパック」は販路拡大に向けて求めやすいので勧めていきたい。また大麦を使ったコラボレーションなどを考えられるよう、地域商店や企業へ今後も営業をしていきたい。「粉末タイプ」も販売しており、市内の菓子店や料理店などからの注文も増えてきている。手芸品全般においては、デザインや素材を吟味しながら、より使用感の良い製品を提供できるように、試行錯誤の中で楽しみながら販売していきたい。

（文責：山口）

5) 施設外就労部門〔入浴清掃作業：特別養護老人ホーム ボニジュール根上苑〕

＜令和 7 年度の主な動き＞

利用者の工賃と一般就労に向けたスキルを向上させるため、施設外就労への取り組みを今年度も行った。年間を通じて作業にしっかりと利用者が入ることができ、また丁寧な清掃を作業時間内に終えるよう自己点検を行いながら清掃作業に取り組んだ。10 年以上に渡り取り組んできた浴室清掃作業であるが、作業利用者の継続的確保等が課題となり、今年度

を持ち終了とさせていただいた。これまで利用者の皆さんに良い作業機会を作っていただきましたことを心より感謝を申し上げます。
(文責：山口)

令和 7 年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	販売 他	印刷	大麦	ホニョール	ぼんそう こう	その他内職	合計
収入合計①	257,180	3,825,250	1,035,384	76,500	467,800	483,678	6,145,792
当期材料	112,315	2,034,394	367,005	0	0	10,578	2,524,292
利用者工賃	146,526	1,502,561	633,527	91,066	488,369	441,451	3,303,500
消耗品費他		16,695	2,948	0	0	2,750	22,393
外注加工費	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	11,240	45,251	167,181	3,343	20,445	21,139	268,599
支出合計②	270,081	3,598,901	1,170,661	94,409	508,814	475,918	6,118,784
余剰金①-②	△12,901	226,349	△135,277	△17,909	△41,014	7,760	△27,008

6) その他

- ・社会参加と障がい福祉の理解、啓発の一環としても行っているイベントや地域販売会への参加も継続して行ってきた。能美市の「ボランティアフェスティバル」「ぼくらの街フェス」などの販売会は、地域の方とのつながりを実感できる機会となっている。今年度は、石川県の「農福連携フェスティバル」にも出店し、当事業所で扱っている大麦製品×福祉のコラボレーションの周知に努めた。
- ・SNS (インスタグラム) を活用し、事業所や自主製品のアピールにも取り組んでいる。
- ・就労以外でも、年間通じて季節感のある行事を取り入れ、外出行事など含め日々の生活の潤いと親睦を深めた。グループワークや就労セミナーなど、一般就労等に向けた社会性の幅を広げる活動も継続して実施した。

(文責：山口)

5. 令和 8 年度に向けて

基本方針

- ・思いやりの心を第一に利用者に寄り添う専門的なサービスを提供し、利用者から選ばれる事業活動を進めます。
- ・利用者が作業を通して安心して通える居場所として機能し、仲間づくりと、互いに研鑽し成長しあえる事業活動を進めます。
- ・利用者が地域で偏見や差別なく安心して豊かに暮らしていけるよう、障がい者の理解啓発活動を進めます。

重点実施事項

- ① 利用者の安定した利用を増やせるよう、心身の体調を整えながら作業に向き合える関わりを大切にします。
- ② 地域の企業等へのアプローチや商談会等のイベントに参加し、工賃向上と魅力ある作業メニューの確保に努めていきます。
- ③ 障がい者理解促進、社会参加のため、販売会や地域の行事活動に参画し地域との関係作りを進めます。

(文責：山口)

《就労継続支援B型事業》
能美地域活動センターはまかぜ山口分場

1. 事業の概要

就労継続支援B型の事業所として、利用者の作業、工賃向上への取り組み、生活の安定、作業をさせていただいている企業の行事への参加などを行った。全体的には、体調を崩し、入院する方や長期間お休みされ退所される方がおられたり、施設入所される方がおられ、年度後半は利用人数が少なめとなった。作業については今年度も年間を通して安定して作業を提供できた6年目となった。

就労継続支援B型事業

(サービス内容)	心身面で一般就労に困難さを抱える方に、福祉サービスにおける就労・生産活動などの機会の提供と知識・能力の向上、一般就労に向けての必要な支援をする。
(定 員)	20人
(利用料)	〔1割負担額〕1日738円（個人所得によって上限あり）
(利用期間)	なし
(作業内容)	内職業務：梱包作業、箱入作業、部品袋入作業 等 自主製品：デコレーションクリップ、ミニ封筒 等 施設外就労：清掃作業
(その他)	昼食・送迎サービス

2. 事業実績

1) 登録者の推移

(1) 登録者数

単位：人

利 用 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
就労継続支援（B型）（定員20人）	23	23	23	21	20	21

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
21	21	21	20	20	20	254	21.2

(2) 市町村登録者数

単位：人

市町村名	能美市	小松市	その他	合 計
延 人 数	155	63	36	254
構成比率	61.0%	24.8%	14.2%	100%

(3) 年代別登録者数（令和8年3月31日現在）

単位：人

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	0	1	1	3	4	1	10
女性	0	2	0	3	3	2	10
計	0	3	1	6	7	3	20

2) 延利用者・利用率の推移

就労継続支援B型事業

開 所 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用人数 (人)	273	261	261	267	228	229
開所日数 (日)	23	21	23	23	20	21
稼働率	59.3%	62.1%	56.7%	58.0%	57.0%	54.5%

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
226	199	237	205	197	225	2,808	234.0
22	18	22	19	18	21	251	20.9
51.4%	55.3%	53.9%	53.9%	54.7%	53.6%	55.9%	

3) 平均工賃の推移

単位：円

支 給 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
総支給額	248,310	184,760	242,930	214,690	189,580	209,060	172,230
平均工賃	11,824	8,798	12,147	11,927	10,532	11,003	10,764
支給人数	21 人	21 人	20 人	18 人	18 人	19 人	16 人

特別賞与	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年度末賞与	年度平均
235,080	174,140	194,130	144,480	176,670	162,060	280,080	
14,693	9,674	10,758	8,499	10,392	10,129	18,672	13,320
16 人	18 人	18 人	17 人	17 人	16 人	15 人	17.9 人

3. 事業の状況

令和7年度の新規登録者は1人、登録終了者は4人（施設入所1名、就労継続支援A型1名、生活介護1名、在宅1名）であった。見学・体験含め本人のニーズを丁寧に聞き取りながら、各関係機関と連携し、利用に繋がるよう努めた。（文責：江端）

4. 作業の概要

1) 作業部門

<令和7年度の主な動き>

・三和物産(株)

葬儀用品の作業を行う。アメニティセットや箱の組立、セット物の詰め作業、お香の袋詰めなど、多種多様な内職作業を年間を通して請け負うことができた。引き続き、丁寧さと納期を意識した仕事を心がけるよう利用者と日々話をしながら作業に取り組んだ。

・宏文印刷(株)

昨年度に続き、年間を通して骨上箸や紙祭壇の組立作業を請け負うことができた。例年より骨上箸の作業や紙祭壇の量が多く、充実した作業の提供ができた。

・ J A小松市

J A小松市より委託を受け、「竹の子ごはんの素」のレトルトパウチ箱詰め作業を行った。「トマトカレーおかき」は、イベント時に作業を請け負うことが出来た。作業中は、丁寧な作業を心掛ける他、衛生面に意識しながら作業を行うことが出来た。

内職納品数

単位：個

商品名	納品数	
	令和 6 年度	令和 7 年度
竹の子ごはんの素	5, 4 0 8	5, 5 1 6
トマトカレーおかき 5 個入	2, 3 7 8	8 6 9

・ コマニー(株)

「S Lーポールウワドメ」、「S Lーポールシタドメ」、「S LーMFカナグ」、「P Lーポールウワドメ」、「P Lーポールシタドメ」5種類の作業を行う。袋詰めした後に箱詰めする作業も引き続き請け負った。配達作業も安全に行えるよう取り組んだ。

内職納品数

単位：個

金具名	納品数	
	令和 6 年度	令和 7 年度
S Lーポールウワドメ	2 3 0	1 6 0
S Lーポールシタドメ	2 1 0	1 7 0
S LーMFカナグ	1, 4 4 0	8 2 2
P Lーポールウワドメ	7 9 0	5 0 0
P Lーポールシタドメ	8 4 0	5 1 0
納品総数	3, 5 1 0	2, 1 6 2

・ テックワン(株)

サンプルハンガー作成作業の依頼を受け、毎月続けて作業を請け負うことができた。

・ (株)ハクサンケミカル

紙管巻生地の外装剥がしの作業をさせていただいていたが、外装素材に変更があり、年度初めの4月のみ作業を行い、5月以降の作業は残念ながら終了となった。利用者の皆さんに良い作業機会を作っていただき本当にありがとうございました。

・ 桃宝食品(株)

3月下旬より、商品の袋詰め作業を行った。普段行っていない作業だった為、利用者の皆さんにとってまた一つ経験となる作業だった。作業工程について、職員間で話をしながら効率の良い方法を見つけ作業提供ができた。

2) 自主製品、販売部門

<令和7年度の主な動き>

デコレーションクリップ、アレンジポーチの物販や、販売会での肉巻きおにぎり棒販売など、地域のイベント販売会などで販売した。利用者が販売会を通じてたくさんの人と関わる機会を作ることができた。

＜令和 8 年度に向けて＞

引き続き、各取引先との連携・協力を密にして、丁寧な作業を継続することで信頼をもってもらい、また新しい作業の依頼をしていただけるよう努める。また利用者がどのような作業に取り組んでいきたいかなど、取り組む意識を大事に作業に反映していけるよう進め、併せて新規取引先の開拓も行っていきたい。今後も利用者の自信と工賃向上、各取引先との連携・協力を大事に進めていきたい。

（文責：北島）

3）施設外就労部門〔入浴清掃作業：特別養護老人ホーム ボニジュール根上苑〕

＜令和 7 年度の主な動き＞

利用者の工賃と一般就労等に向けたスキルを向上させるため、施設外就労への取り組みを行ってきました。山口分場開所以来長年作業をさせていただきましたが、作業利用者の継続的確保等が課題となり、今年度で終了とさせていただきました。これまで利用者の皆さんに良い作業機会を作っていただきましたことを心より感謝を申し上げます。

（文責：北島）

令和 7 年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	販売他	J A	ボニジュール	コマニー	ハクサン ケミカル	三和物産	館内 清掃	テックリン	合計
収入合計①	70,162	81,122	64,500	125,091	49,742	2,063,325	120,000	411,450	2,985,392
当期材料	29,452	0	0	0	0	149,138	0	2,425	181,015
利用者工賃	18,316	79,506	52,500	71,610	25,008	1,912,101	120,000	314,079	2,593,120
外注加工費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	4,146	4,793	3,811	7,391	2,939	121,919	7,091	24,312	176,402
支出合計②	51,914	84,299	56,311	79,001	27,947	2,183,159	127,091	340,816	2,950,538
余剰金①-②	18,248	△3,177	8,189	46,090	21,795	△119,833	△7,091	70,634	34,854

4）その他

- ・地域への障害福祉の理解、啓発の一環として前年度に引き続き、コマニー(株)のコマフェスの催しに物販含め参加することができた。しかし、前年度行った町内のごみ拾いや山口町文化祭に参加することができなかったのはとても残念だった。
- ・余暇活動も昨年度に引き続き企画でき、能登方面への外出の機会など日々の楽しみ以外にも、利用者同士の親睦を深める機会がくれた。

（文責：江端）

5. 令和 8 年度に向けて

基本方針

- ・思いやりの心を大切に専門的なサービスを提供し、利用者が安心していきがいを持って通える活動を進めます。
- ・利用者同士と一緒に働く仲間として、お互いに認め合い協力し合える事業所（職場）であること、それぞれが成長していくことを大切にします。
- ・利用者が地域で偏見や差別なく安心して豊かに暮らしていけるよう、障がい者の理解啓発活動を進めます。

重点実施事項

- ① 作業や販売会等に向き合う中で、自信と自己肯定感を増やしていくため、互いに認め合い、良い所を見つけ伝えていく機会を定期的に設けて進みます。
- ② 新たな利用者を増やせるよう、事業所の特色を関係機関に知ってもらえるよう発信していきます。
- ③ 地域の行事・活動に参加・協力し、障がい者、事業所を理解してもらえる機会と関係りに努めます。

(文責：江端)

《共同生活援助事業（介護サービス包括型）》

グループホームなごみ・しらさぎ

1. 事業の概要

(目 的) 共同生活援助事業は、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びに、その置かれている環境に応じて、共同生活住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うことを目的としている。

1) グループホームなごみ

(定 員) 10人

(家 賃) 月額28,000円(但し、電気水道代及び食事代は、自己負担)

※家賃助成制度あり

2) グループホームしらさぎ

(定 員) 6人

(家 賃) 月額23,000円(但し、電気水道代及び食事代は、自己負担)

※家賃助成制度あり

3) 共通

(利用料) 区分と所得に応じて各自異なる。

(共用部分) 入浴・共同利用部分水道光熱費 月額2,000円

(食 事) 基本的には自炊。(必要に応じて世話人、生活支援員が支援する)
また、希望すれば、月～金の昼食、夕食は、給食サービスが利用できる。

(洗 濯) 洗濯機1回(30分)100円、乾燥機1回(60分)100円

(駐車場代) 月額1,000円(車1台)

2. 年代別利用者内訳(令和8年3月31日現在)

単位：人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	0	0	0	0	2	1	5	10
女性	0	0	0	0	3	4	0	5
計	0	0	0	0	5	5	5	15

3. 利用状況

令和7年度 グループホームなごみ・しらさぎの入退去者数 単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入居	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—
退居	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
月末利用者数	15	15	15	15	14	14	14	14	16	16	16	15

令和7年度 グループホームなごみ・しらさぎの入居実数 単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
なごみ	9	9	9	9	8	8	8	8	10	10	10	9
しらさぎ	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
月末利用者数	15	15	15	15	14	14	14	14	16	16	16	15

グループホームなごみ定員10人、しらさぎ定員6人。令和7年度は入退去の変動が多い1年であった。7月に地元（県外）のグループホームへ移った方1名、10月から入院となり、退院後は自宅へ戻った方1名の計2名が退去となった。12月に自宅から1名、病院から1名入居となり、令和8年3月31日現在でグループホームなごみ1室空きで15名の入居者となっている。

4. 主な日中の生活の場（令和8年3月31日現在）

- ・就労継続支援事業B型 4人 ・生活介護事業 1人
- ・地域活動支援事業 1人 ・一般就労 1人
- ・就労継続支援事業B型と地域活動支援事業の併用 1人
- ・就労継続支援事業B型と生活介護事業との併用 2人
- ・就労継続支援事業B型と高齢者デイサービスとの併用 1人
- ・精神科デイケア 1人
- ・該当なし 3人

利用者の日中活動の場として今年度は、高齢化に伴う身体機能面から、高齢者サービスの利用や、働く場だけでなく余暇活動の利用との併用が増え、1事業所利用から併用利用する方が増えた1年であった。（文責：瀬戸）

5. 利用者支援等

1) 行事及び活動

① 地域交流等

- ・5月 北浅井町町内会一斉清掃
- ・6月 なごみ祭
- ・11月 北浅井公民館まつり

② 利用者間交流

- ・8月 備蓄品のローリングストックでカレーを食べてカラオケ大会
- ・12月 忘年会で年越しうどんを食べてカラオケ大会
- ・1月 新年会で雑煮を食べる

③ 企画

- ・お盆に防災用備蓄品のカレーを食べ、そのあとにカラオケ大会をした。
- ・年末に年越しうどんを食べ、そのあとにカラオケ大会をした。

- ・毎月第3水曜・木曜を「特別入浴デーなごみ湯」とし、通常より早い14時から利用可にして毎回違った入浴剤を入れ入浴促進を図った。
- ・GHの1年間の活動や利用者の様子をまとめた“GH便り”を年度末発行し、家族に配布した。
- ・年2回防災訓練では、10月に火災と水害を想定した避難訓練と水消火器を使つての消火訓練を行った。3月は消火器の置き場所と非常口の再確認を行い、職員不在時を想定した火災の避難訓練を行った。

2) 定例ミーティング

毎月第1水曜日にグループホームなごみ・しらさぎの合同ミーティング（しらさぎ定例ミーティング含む）で、行事等のお知らせやGH全体での様々な情報共有、また、共同生活上で発生した課題などについて話し合いを行った。

月	種別	参加者	内 容
4	定例	13 人	新年度の挨拶《お知らせ》特別入浴企画、ほっとサロン、第三者委員会、R7年度タクシーチケット、浴室の清掃時間のお知らせ《お願い》がん検診・はつらつ検診・歯科検診について、職員の対応時間《感染予防》検温、マスク着用、手指消毒、手洗いのお願い《その他》GHの契約更新のついて《話し合い》避難訓練の振り返り、健診の必要性について《今月の格言》相田みつを
5	定例	14 人	《お知らせ》ほっとサロン、特別入浴企画、理事会、フードパントリー、R7年度タクシーチケット、町内一斉清掃について《お願い》家賃と領収書と請求書《感染症予防》検温、マスク着用、手指消毒、手洗いのお願い《その他》なごみ祭の作品展出品者の募集《今月の格言》やなせたかし
6	定例	14 人	《配布》GHの決まりごと《お知らせ》なごみ祭の日程、フードパントリー、ほっとサロン、特別入浴企画、ごみ当番表について《お願い》家賃と領収書と請求書、トイレの使い方《感染症予防》検温、マスク着用、手指消毒、手洗いのお願い《生活お役立ち情報》歯の健康について《居室ワックスがけ大掃除》6/16～7/11の期間で実施《今月の格言》やなせたかし
7	定例	12 人	《お知らせ》フードパントリー、ほっとサロン、特別入浴企画、コマフェス2025展示作品募集《お願い》なごみの郷の備品について、分別ごみの捨て方、夜間の過ごし方、家賃の領収書と請求書《感染症予防》検温、マスク着用、手指消毒、手洗いのお願い《生活お役立ち情報》入浴について、熱中症に注意《居室ワックスがけ大掃除》整理整頓のお願い、ゴキブリ団子代金の集金。《今月の格言》やなせたかし
	しらさぎ 定例	6 人	トイレ備品代徴収のお知らせ。トイレトペーパーの適切な使い方。
8	定例	15 人	《お知らせ》水道メーター交換工事、小松ガス点検、フードパントリー、ほっとサロン、特別入浴企画、お盆の予定《お願い》家賃の領収書と請求書《感染症予防》検温、マスク着用、手指消毒、手洗いのお願い。風邪、インフルエンザ、新型コロナ、ノロなどの感染症に注意。風邪症状がある方はマスク着用のお願い。体調の悪い方は職員にお知らせください《生活お役立ち情報》熱中症と食中毒《ワックスがけ大掃》ゴキブリ団子の集金《今月の格言》糸井重里

9	定例	12 人	《お知らせ》新入職員村井の紹介。フードパントリー、ほっとサロン、特別入浴企画、喫煙場の移動、市の集団検診について、防災訓練《お願い》家賃の領収書と請求書《感染症予防》検温、マスク着用、手指消毒、手洗いのお願い。風邪、インフルエンザ、新型コロナ、ノロなどの感染症に注意。風邪症状がある方はマスク着用のお願い。体調の悪い方は職員にお知らせください《生活お役立ち情報》災害時に備えた環境整備。ローリングストックについて。自分の身は自分で守る。《今月の格言》さくらももこ
	しらさぎ定例	6 人	掃除当番をする曜日についての話し合い。
10	定例	12 人	《お知らせ》国政調査、フードパントリー、ほっとサロン、特別入浴企画、はつらつ健診・長寿健診、インフルエンザ予防接種の申し込み《お願い》家賃の領収書と請求書《感染症予防》検温、マスク着用、手指消毒、手洗いのお願い。風邪、インフルエンザ、新型コロナ、ノロなどの感染症に注意。風邪症状がある方はマスク着用のお願い。体調の悪い方は職員にお知らせください《防災訓練》概要をお知らせ《今月の格言》作者不明
	しらさぎ定例	6 人	しらさぎトイレ備品代集金
11	定例	13 人	《お知らせ》フードパントリー、ほっとサロン、特別入浴企画、浴室清掃時間の変更、インフルエンザ予防接種、傘に名前を付けましょう、防犯対策のため部屋の施錠、GH入り口の開錠時間の変更、GH玄関の暗証番号の更新、熊対策、年末すす払い大掃除の日程について《お願い》家賃の領収書と請求書《感染症予防》検温、マスク着用、手指消毒、手洗いのお願い。風邪、インフルエンザ、新型コロナ、ノロなどの感染症に注意。風邪症状がある方はマスク着用のお願い。体調の悪い方は職員にお知らせください《分別ごみの捨て方》瓶、ペットボトル《防災訓練の振り返り》《今月の格言》作者不明
12	定例	13 人	《お知らせ》新規入居者の紹介、フードパントリー、ほっとサロン、特別入浴企画、家賃の値上げについて、年末年始の予定 GH なごみ玄関の暗証番号の変更、名前なしの傘の処分について《お願い》家賃の領収書と請求書、地域住民としてのマナー、夜間の過ごし方、憩いの間利用時間の徹底《生活お役立ち情報》冬の感染対策、年末年始の過ごし方《話し合い》来年度に向けて皆さんの意見を募集《感染症予防》検温、マスク着用、手指消毒、手洗いのお願い。風邪、インフルエンザ、新型コロナ、ノロなどの感染症に注意。風邪症状がある方はマスク着用のお願い。体調の悪い方は職員にお知らせください《今月の格言》作者不明
1	定例	13 人	《お知らせ》新規入居者の紹介、フードパントリー、ほっとサロン、特別入浴企画、名前なしの傘の処分について、憩いの間の利用時間、GH 便り発行、危険を知らせる笛の配布、夕食アンケート《お願い》家賃の領収書と請求書、ゴミの捨て方と分別《生活お役立ち情報》ヒートショックについて《話し合い》新聞の置き場所について、間違い探しクイズ《今月の格言》ありがとうは魔法の言葉
2	定例	14 人	《お知らせ》理事会開催、フードパントリー、ほっとサロン、特別入浴企画、防災訓練、夕食アンケート、家賃の値上げ、しらさぎ備品代の徴収、《お願い》家賃の領収書と請求書、ゴミの捨て方と分別について、洗濯恋

			乾燥機の使い方、お風呂の利用について《話し合い》なごみ祭のサブタイトルの募集、間違い探しクイズ《今月の格言》美輪明宏
3	定例	14人	《お知らせ》3/11の夕食について、フードパントリー、ほっとサロン、特別入浴企画、防災訓練、家賃の値上げについて《お願い》家賃の領収書と請求書、お風呂場の利用について、感染症予防のため手洗いしましょう《生活お役立ち情報》自転車保険と交通安全について《今月の格言》相田みつを

(文責：富樫)

3) 個別支援

①日常生活の支援

- ・生活リズムの調整（体調確認や日中の過ごし方の確認、等）
- ・買物支援（買い物の見守りや店員とのやり取りの補助、物品選びの相談、等）
- ・金銭管理（福祉サービス利用支援事業の利用、金銭の使い方の振り返り、等）
- ・清掃支援（共有スペース、居室清掃の見守り、ゴミ出しの声掛け・見守り等）
- ・清掃確認（居室及び共有スペースの清掃の声掛け、清掃後の確認、等）
- ・清潔保持（入浴や着替え、洗濯、身だしなみ等の促しと声掛けや一部介助、等）
- ・銀行同行（ＡＴＭ操作の見守り）

②医療に関する支援

- ・服薬管理（服薬の確認、薬カレンダーセット、等）
- ・受診同行

③個別面接及び相談支援

- ・個別支援計画面接
- ・日中の相談支援
- ・午後８時半まで世話人の配置を行い利用者の服薬管理及び支援や緊急時の対応

④家族支援

- ・家族からの相談対応

⑤関係機関との連携

- ・利用者に関わる機関や行政、及び病院関係者や訪問看護等と連携しながらの支援

6. 事業の状況

令和7年度は、『健康』をテーマとし、利用者一人ひとりが、現在の体の状態を知り、健康を意識して生活をしていてもらえるように取り組んだ。市の特定健診やがん検診の推奨、毎月行う利用者のミーティングで、様々な健康に関する情報提供やお知らせを行った。日常生活支援では、「特別入浴デーなごみ湯」で、心身のリラックス効果や清潔面への意識付けの機会として継続して行った。居室は利用者が安心して快適な場所となるよう、必要に応じて個別に居室清掃支援や環境整備等、利用者と共にを行った。健康づくりに大切な運動についても、個別に利用者の状況に合わせて利用者のできる範囲での体操を取り入れ毎日行っていくことで少しずつではあるが、転倒防止への効果へと繋がっていった方もおられた。

今年度は、北浅井町の一員として生活している「グループホームなごみを地域の方に知ってもらいたい」との思いから、北浅井町公民館まつりに、グループホームなごみの紹介のポスターを利用者と共に作成し、展示してもらった。当日の公民館まつりにも参加し、地域の方と共にまつりを楽しんだ。また、今年度から義務化となったグループホームの地域連携推進会議を2月に開催。今後も継続して開催していく中で、より一層地域の方と関わる機会が増えていけるとよいと思っている。

来年度も、健康をテーマとし、今年度行ってきた取り組みを継続しながら、利用者一人ひとりが元気に安心した生活をしていけるよう、利用者と共に進めていきたいと思う。

7. 令和8年度に向けて

基本方針

- ・利用者の体調や日常生活を整え、安心・安全な日常生活が送れるよう支援します。
- ・利用者が地域とのつながりを意識できるような働きかけをします。
- ・個々の障害の特性に応じた支援が行える様に支援の質を高めていきます。

重点実施事項

- ① 健診（特定健診・歯科検診）を推奨します。体調不良の時には早期受診を促します。
居室清掃等環境面の整備、洗濯・入浴等衛生面の強化、運動を生活に取り入れていきます。
- ② 地域のイベントの周知・参加等を促します。
- ③ 支援の振り返りと検証を定期的に行っていきます。

（文責：瀬戸）

《相談支援事業》

相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかぜ

1. 事業の概要

（目的） 障害を持たれた方等やそのご家族の、福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援等、必要な支援を関係機関との連携を取りながら行うとともに、虐待の防止及びその早期発見、その他の障害者等の権利擁護のために必要な援助を行う。

（利用料） 無料

（利用時間） 月曜日～金曜日（土・日・祝日、年末年始） 9：00～17：30

（事業内容）

- ・基本相談（小松市、能美市、川北町より委託）
福祉サービスに繋がっていない障害のある方、その家族への相談業務と必要な支援を行う。
- ・指定特定相談支援事業
福祉サービス利用者に対し、サービス等利用計画の作成を行うとともに、サービス調整やモニタリングの実施などを通し、本人のニーズをもとに必要に応じて支援を行う。
- ・指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）
精神科病院からの退院支援、施設入所施設からの退所支援、その後の地域生活が定着するよう支援を行う。
- ・指定障害児相談支援事業
福祉サービス利用者に対し、サービス等利用計画の作成を行うとともに、サービス調整やモニタリングの実施など、ニーズをもとに必要に応じて支援を行う。
- ・ひきこもりステーション事業〔相談〕（小松市委託事業：相談なごみ）
生きづらさをかかえ、ひきこもりがちになっている方が、再び社会参加をしていく第一歩となるよう、アウトリーチ支援含めた相談支援を行う。

2. 事業実績（相談支援センターなごみ：障害相談）

（1）年間利用状況

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談実人数	78	100	89	96	85	104	95	91	85	104	95	101	1,123
相談件数	138	231	228	255	204	234	245	203	202	256	209	240	2,645
計画相談件数	71	57	65	62	53	74	69	74	61	76	76	73	811

（2）年間支援方法

単位：件

訪問	来所相談	同行	電話等相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
1,076	231	183	942	111	78	87	0	2,708

（3）サービス等利用計画作成対象者（令和8年3月31日現在）

単位：人

年齢	～10代	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
男性	15	11	9	9	11	20	24	99
女性	8	5	10	11	12	13	18	77
計	23	16	19	20	23	33	42	176

（4）小松市障害支援区分認定調査数

単位：件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	5	1	5	3	3	7	4	5	9	5	9	58

（相談支援センターなごみ：ひきこもり相談）

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	30	31	29	30	29	27	31	29	28	29	28	30	351
相談件数	116	119	115	115	104	104	106	83	93	79	91	97	1,222

3. 事業の状況

居場所や就労の場を希望しているが、人と関わることが苦手生きづらさを抱えている方の相談が多かった。また、親の体調不良や認知機能の低下から、世帯全体を支えるための支援者会議が昨年と比較すると多く開催された。児童のケースでは、親への支援が必要な家庭もあり、年代や障がい問わず、教育機関や福祉サービス事業所、社協、高齢者総合相談センター等の必要な機関との連携が増えている。

ひきこもり支援ステーション事業は、基幹相談支援センターや医療機関からの紹介に加え小松市広報8月号の掲載をきっかけとした問い合わせがあり、地域に周知されつつある。

行政、他機関との連携：

基幹相談支援センターの業務等についての振り返りが定期的に行われ、主任相談支援専門員が新規相談や相談支援専門員の育成を担った。

- ・連携支援会議 毎週金曜日 小松市基幹相談支援センター、障がい者相談支援センターと合同でケース報告、情報交換開催。
- ・小松市相談支援事業所連絡会 月1回（集合にて）
事例検討会、かかわりの点検会（スーパービジョン）、面接技術、地域資源、メンタルヘルスクエア研修ストレスの対処方法、生活保護のしくみについて学ぶ、地域課題の整理等
- ・その他ケースにあわせたケア会議の出席や情報共有

障害者自立支援協議会：

年度目標をたてながら課題整理や年度計画達成に向けた活動を行った。

- ・全体会 年1回 ・運営委員会 年3回
- ・高齢者総合相談センター・相談支援事業所連携会議 年1回
- ・精神障害者等地域生活支援検討部会 年3回
- ・石川県自立支援協議会ネットワーク会議 年1回

4. 令和8年度に向けて

基本方針

障害を持たれた方や生きにくさからひきこもり状態にある方、そのご家族の福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な地域情報の提供、サービスの利用支援などを、伴走支援で行う。また関係機関や地域との連携を取りながら、地域で安心して暮らせる支援体制の構築に努める。

重点実施事項

- ① 精神障害者の高齢化による介護保険移行時に際し、障害理解が弊害となるケースがある為、介護包括サービス事業所との連携を深め、円滑な移行を促進する。
- ② 他市を含め事例等の情報収集を行い、多様な業種、他機関との話し合いから、相談支援の幅や体制の充実を図ります。
- ③ ひきこもり支援の相談窓口であることを地域に知って頂く活動を推し進めます。
- ④ ひきこもり当事者やご家族のニーズを丁寧にキャッチし、介入支援のタイミングに留意した相談支援を進めます。
- ⑤ 自立支援協議会への積極的な参加により、地域課題や資源開発に向けた活動を行います。
- ⑥ 各種研修会や事例検討会などの参加、また個々のケースを通じた他機関連携により、専門職としてのスキルアップを図ります。

（文責：中西）

5. 事業実績（相談支援センターはまかぜ）

（1）年間利用状況

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談実人数	75	70	80	73	66	76	77	70	76	72	67	77	879
相談件数	130	114	131	165	140	147	189	134	135	148	119	151	1,703
計画相談件数	36	42	52	39	39	43	39	32	49	34	40	52	497

(2) 年間支援方法

単位:件

訪 問	来所相談	同 行	電話相談	個別支援 会 議	関 係 機 関	その他	合 計
658	64	152	604	152	73	0	1,703

(3) サービス等計画作成対象者 (令和7年3月31日現在)

単位:人

年齢	～10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合 計
男性	16	9	7	9	15	11	67
女性	4	6	5	7	9	8	39
計	20	15	12	16	24	19	106

(4) 能美市障害支援区分認定調査数

単位:件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	3	3	1	1	0	2	1	2	4	4	2	24

6. 事業の状況

基幹相談支援センターが中心となり、関係機関と協力しながら相談体制や人材育成などについて協議を行った。相談傾向としては、症状や体調の悪化などから緊急対応が必要となるケースが多く、緊急対応後もサービス調整や行政的な手続き支援、関係機関との連絡調整なども含め継続した支援が必要となり、その後の対応に追われた。実績からもわかるように、計画相談で関わっている方のモニタリング月以外での面談やサービス調整、同行支援も昨年度に引き続きさらに多くなっている。

行政、他機関との連携:

令和8年度は基幹相談支援センターが委託から直営に変更になるため、体制変更についても行政、他の主任相談支援専門員が配置されている相談支援事業所と検討を重ねた。支援チーム会議、地域ケア会議への参加や、保護者の高齢化に伴い、介護分野との連携も増えてきている。児童のケースも増え、学校や保育園などとの連携も行った。

障害者自立支援協議会:

委託事業所として、コア会議、運営会議、全体会に参加。通所事業所連絡会の事務局機能も担っている。分野別連絡会として、相談支援事業所連絡会、こども連絡会、事業所連絡会(通所系、訪問系)があり、各連絡会で地域課題等を出し合い、課題に対してどのように取り組んでいくか等協議を行っている。今年度は生活支援拠点のワーキングが再始動し協議の場を持ち、まずは緊急対応として、緊急対応の必要性が高い利用者から、クライシスプランの作成を行っていくためのリスト化や優先順位などを確認しあった。今後も継続して話し合いの場を持つことになっている。

7. 令和8年度に向けて

基本方針

南加賀圏域の各市町行政、社会福祉協議会、医療機関、福祉サービス事業所などと連携をとり、障がいのある方の安心で豊かな生活の支えとなることや、高齢化や親亡き後を見据えた柔軟で切れ目のないサポート体制などを関係機関等と協働しながら、社会福祉の課題に取り組み、地域福祉の向上を目指します。

重点実施事項

- ① 地域、行政、関係機関などと連携の中で役割を補完し合いながら障がいのある方のサポートを行い、地域で安心して生活できるよう相談支援体制などの検討を行う。
- ② 自立支援協議会や地域関係団体協議会、事例検討会等への参加を通して、地域社会資源の開発、人材育成に役立てることが出来るよう専門職として力を発揮し、活動します。
- ③ 家族全体がニーズを抱えているケースが増え、多様な連携やきめ細やかな関りが求められるので、長期的な視点で家族全体を関係者と一緒に支え次のステップへ進んでいけるよう支援に努めます。

(文責：堂前)

《生活介護事業、地域活動支援センター事業、ひきこもりステーション事業〔居場所〕》

地域活動センターくろゆり・地域活動支援センターハレマ

1. 事業の概要

令和7年3月に地域活動支援センターハレマの開所式典を行い、ひきこもりステーションの居場所機能の運営が本格的に始まった。地域の方に周知していただくために、市の広報にひきこもりの特集を組んでいただけるよう働きかけ、実現した。また、SNS等の活用、1周年記念の「ハレまつり」の開催などを行うことで、少しずつ認知していただけるようになってきた。

1) 生活介護事業【くろゆり】

- (目的) 日常生活をより豊かにするため、創作活動、余暇活動、生産活動の機会を提供し、必要に応じて、食事や入浴、服薬、排泄等の介助等支援を提供する。それぞれの希望をもとに個別支援計画を作成し、創意工夫をし、個別に支援を提供することを目的とする。
- (定員) 20人
- (利用料) 1日 障害程度区分及び、利用時間により
〔1割負担額〕218円～1,353円の範囲
(個人所得によって上限あり)
- (利用期間) なし
- (利用区分) 区分3以上、50歳以上の方については区分2以上

2) 地域活動支援センター事業【くろゆり及び、ハレマ】

- 〔小松市(機能強化Ⅲ型含む)、能美市、加賀市、白山市、川北町他委託事業〕
- (目的) 創作活動、余暇活動、生産活動などを通じ、各個人がそれぞれの生活を豊かにし、生きがいや夢を持って生活できるように創意工夫

し支援を提供する。また、「気軽に立ち寄れる居場所」としての機能を重視することを目的とする。

- (定 員) 10人
 (利用料) [1割負担額] 3時間以下 218円 3時間を超えて4時間以下273円 4時間を超えて5時間以下 327円 5時間を超えて6時間以下 381円 6時間を超えた場合 435円
 (利用期間) なし

3) ひきこもりステーション事業〔居場所〕【ハレマ】

〔小松市委託事業〕

- (目 的) 障害の有無にかかわらず、生きづらさをかかえてひきこもりがちな
 になっている方が、再び地域へ出る第一歩となる居場所として、
 人と交流し希望を抱ける場として各種活動や相談の提供を行う。
 (定 員) 10名
 (利用料) なし

《サービス内容》

- ・創作活動：アート、俳句、習字、野菜作り 等
- ・余暇利用：買い物、ゲーム、ドライブ、散歩、カラオケ、ハンドベル 等
- ・生産活動：ねじの袋詰め、ハーネス袋詰め、等
- ・健康維持：体操、各種運動、脳トレ 等
- ・季節行事：初詣、花見、忘年会、年度末会、小旅行 等
- ・各種相談：生活相談、金銭相談、制度相談、医療相談・同行、訪問支援 等
- ・地域貢献活動：フードパントリー、町内ごみ拾い
- ・他居場所機能：オフクロ（土曜日の開所）、よるくろ（夜の開所）
- ・その他：送迎サービス、昼食サービス

2. 事業実績

(1) 登録者の状況

① 事業利用別登録者数

単位：人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
生活介護	16	16	16	16	16	17	18	18	18	19	19	18	17.3
地域活動	68	71	73	76	77	80	81	81	81	80	82	76	77.1
ひきこもり〔居場所〕	2	2	4	4	4	7	8	8	8	6	5	5	5.3
合 計	86	89	93	96	97	104	107	107	107	105	106	99	99.7

② 市町別登録者数（令和8年3月31日現在）

単位：人

項 目	小松市	能美市	加賀市	白山町	輪島市	合 計
生活介護	15	3	0	0	0	18
地域活動（ひきこもり）	50	18	7	1	0	76
合 計	65	21	7	1	0	94

③ 年代別登録者数（令和 8 年 3 月 31 日現在）

単位：人

年 齢	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合 計
男 性	1	6	7	13	17	5	5	54
女 性	1	3	7	15	7	6	1	40
合 計	2	9	14	28	24	11	6	94

④ 障害種別登録者数（令和 8 年 3 月 31 日現在）

単位：人

障害名	統合	気分	発達	身体	知的	その他
男性	13	15	7	3	15	1
女性	10	11	10	1	8	0
合計	23	26	17	4	23	1

(2) 利用延べ人数

単位：人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	23	22	23	25	21	22
生活介護	149	141	147	158	147	142
地域活動	197	220	235	266	243	274
ひきこもり〔居場所〕	2	4	2	5	5	8
延べ利用者数計	348	365	384	429	395	424
一日の平均利用者数	15.1	16.5	16.6	17.1	18.8	19.2

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25	20	23	20	20	23	267
149	126	152	153	144	151	1,759
294	277	286	236	257	348	3,133
8	5	7	5	1	0	52
451	408	445	394	402	499	4,944
18.0	20.4	19.3	19.7	20.1	21.6	19.5

3. 事業の状況

令和7年度は地活の登録者が前年度より31人増加した。要因としては、ハレマを利用するようになったひきこもりがちの方が、その後、地活登録となったケースが何件もあったことが考えられる。なんらかの理由で仕事にいけなくなり、受診もしたが、障害福祉を利用することまでは考えていなかった方々に、ハレマという場が門戸を開いたのではないだろうか。その他、日々の多様な活動で生まれたつながりや、利用者の口コミで登録になった方々もあり、みんなで作り上げた場が成熟して来ているのを感じた。

一方で、生活介護は利用者が入院したり、調子を崩したりして、利用稼働率の伸びはなく例年通りとなった。改めて事業運営の難しさを感じた。

活動面では、職員・利用者の持つ特技を活かした表現系の活動内容がより充実し、午前と午後の活動プログラム以外にも、音楽やクラフトなどのサークル活動的なものを並行してハレマで行えるようになり、多様なニーズに対応できるようになった。麻雀やテレビゲームなどを通して人と交流できる活動も定着している。わいわいと賑やかなくろゆりと、静かに過ごせるハレマという住み分けができあがってきた。また、毎月第1日曜日のフードロス削減活動のフードパントリー、毎月第3土曜日の居場所「オフクロ」、第3火曜日の19時までの延長開所「よるくろ」はどれも、多くの利用者に参加していただいている。9月から第3土曜日に開始したひきこもり当事者と家族のための「ハレマカフェ」は、現在はまだ参加者が少ない状況である。その他、ハレマオープン1周年記念の「ハレまつり」を開催し、初の地域食堂にもチャレンジし、多くの地域の方にご協力をいただいた。障がい者という垣根が取っ払われ、みんながともに楽しむ景色は、私たちが追い求めてきたものだと感じた。

令和8年度は、ひきこもりステーション相談事業を、相談支援センターなごみからハレマ建屋内に移し、相談につながった方の居場所への移行がスムーズに行えるようになると思う。

生活介護事業では、利用者の掘り起こしに力を入れていきたい。今まで福祉につながってこなかった方々にも知っていただけるように、医療機関と連携させていただきながら広報活動をしていきたいと考えている。生活介護の稼働率を上げ、安定した運営をしつつ、新たな企画等に職員、利用者共に取り組んでいきたい。

(文責：松本)

4. 令和8年度に向けて

基本方針

障害の有無に関わらず、地域で生きづらさを抱えた方が、自分の存在を受け止めてもらえる安心感と、仲間と過ごす喜びを感じる場作りをします。また利用者と地域住民とのゆるやかな交流が生まれる活動を行い、地域に根ざした居場所として認知していただけるように努めます。

重点実施事項

- ① 利用者の年齢や障害特性の幅と多様なニーズに添えるよう、2つの建屋を活用して、住み分けながらも共存できる場作りをします。
- ② 地域で暮らしながらも医療機関としかつながってこなかった方々に福祉サービスを知っていただけるよう、医療機関と連携した広報活動を行い、地域での孤立孤独を防ぎます。
- ③ ひきこもり支援において、ハレマの地域への周知と共に活動プログラムを充実させ、当事者やご家族の居場所として更に活用していただけるよう充実を図ります。

(文責：松本)

《生活困窮者就労準備支援事業》
のみワークポートりんく

1. 事業の概要

のみワークポートりんくは、能美市から生活困窮者自立支援制度における就労準備支援事業の委託を受け、令和4年7月から本格的に事業を開始した。事業は、一般就労に向けた準備として基礎能力形成の支援を、生活・社会・就労自立支援で計画的かつ一貫して実施する。対象者は、働くうえで複合的な生活課題や他者との関わりに不安を抱えるなど、生活習慣の形成からコミュニケーション能力の形成を含め、自尊心や自己有用感を喪失している方が多い。そのため、直ちに就職ありきではなく、その方の生きづらさは何かを考え、生活全般を支える視点で関わり、信頼関係をつくっていくことが大事となっている。事業目的や地域の支えが、生活に困窮している方々のセーフティーネットであるという側面を、支援を通して地域に認知していただく活動も求められている。

令和5年7月からは、生活に困窮しがちな方やひきこもりがちな方の地域の居場所として「Port」を開設。地域社会の中で安心して出かけられ、受け入れられ、その人らしく過ごせる「場」となり、相談機関に出向くよりも、気軽に日ごろの困りごとなどを話しやすい「場」として開設している。

1) 就労準備支援事業（りんく）

（支援内容）	生活習慣形成のための指導・訓練（生活自立支援）、就労の前段階として必要な社会的能力の習得（社会自立支援）、事業所での就労体験の場の提供や、一般雇用への就職活動に向けた技法や知識の取得等の支援（就労自立支援）の3段階で支援。そのほか、就職後のフォローアップや地域への事業啓発、及び生活困窮者を支える地域のネットワークづくり 等
（対象者）	能美市在住 〔15歳以上、65歳未満で障がいをお持ちではない方〕
（定 員）	5名程〔1日〕
（利用料）	なし
（利用期間）	原則1年
（開所日）	月～金曜日 9時～15時
（その他）	送迎サービスあり

2) ひきこもり支援ステーション事業（居場所 Port）

（支援内容）	気の向くままに立ち寄り、自由な空間でゆっくり過ごすことができ、生活相談等にも対応する。（スタッフ常駐） テレビや新聞、パソコン、カードゲーム、学習教材、Switch等をそろえ、季節の行事等のプチイベントも開催し、仲間と無理なく触れ合って楽しい時間を共有したり、自分らしく役割を果たすことのできる機会や環境を創出する。また、情報発信を行う等、安心して過ごせるサードプレイスとして地域におけるネットワークづくりの一端を担う。
--------	---

(対象者)	能美市在住 〔15歳以上65歳未満で障がいをお持ちではない方〕
(定 員)	原則なし
(利用料)	なし
(利用期間)	定めなし（1年毎更新）
(開所日)	毎週金、第3土曜日 10時～16時
(その他)	送迎サービスなし〔イベント時は送迎サービスあり〕

2. 事業実績

就労準備支援事業（りんく）

① 登録者数

単位：人

利 用 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
就労準備支援事業	13	13	15	15	14	15

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
14	14	15	15	16	15	174	14.5

② 年代別者数（令和8年3月31日現在）

単位：人

年齢	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～	計
男性	0	2	2	2	5	2	13
女性	0	2	0	0	0	0	2
計	0	4	2	2	5	2	15

③ 延べ利用者・利用率

単位：人

利 用 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
延人数	42	40	62	59	45	43
開所日数	25	24	25	23	19	21
1日の平均利用者数	1.7	1.7	2.5	2.6	2.4	2.0

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
52	45	60	48	58	54	608	50.6
25	19	22	21	21	21	266	22.1
2.0	2.4	2.7	2.3	2.8	2.6	2.3	

④ 就職者数

単位：人

対 象 者	男	女	合計
就職に繋がった者の人数	6	2	8
（うち障がい者雇用）	1	0	1
（うち一般就労）	5	1	6
（うち福祉就労〔就労継続支援等〕）	0	1	1

ひきこもり支援ステーション事業（居場所 Port）

利用者数

単位：人

利 用 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
居場所の利用者（実人数）	13	13	17	13	11	11
居場所の利用者（延べ人数）	24	27	32	30	30	28
家族会参加者（延べ人数）	0	0	0	0	0	0
当事者会参加者（延べ人数）	8	9	12	9	10	10
当事者・家族・地域向け企画参加者（延べ人数）	—	—	35	—	—	7

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
11	11	16	13	12	15	
47	30	40	37	47	47	419
0	0	0	0	0	0	0
9	10	12	9	10	10	118
—	15	—	1	3	—	54

3. 事業の状況

令和7年度の新規登録者は7人、登録終了者は5人、一般就職者は6人であった。支援では焦らず寄り添い、当事者と課題を一緒に進めることで、必ず変化が見られることを実感する。そのためオーダーメイドプランでの伴走支援が重要と振り返る。その中で、中間就労的な場面として、数人で行ける地域の農家さんや地域のボランティアの場も広がっており、社会性を培える場面が増えてきたように感じている。地域の居場所としてのPortは、延べ人数も増えており、日々の潤いや社会参加への足がかりを求める利用者の利用が感じられ、自宅以外の場所で、同じ境遇の仲間の中で、何気ない日常の会話、皆で行うイベントの楽しみなどから、元気を取り戻し、就労に向かうきっかけが見える。また関係機関事業からの若い世代のひきこもりがちな方の利用ニーズも増えているが、ご家族と共に本人の支援にあたるケースも伺え、ご家族の学びや家族会を通して、助けとなるようなかわり支援が更に必要と感じている。（文責：高田）

4. 令和8年度に向けて

基本方針

生活習慣改善や社会参加能力の向上により、就労に従事する能力を身につけられるよう支援する上で、日頃の生活支援や他者との交流活動の機会、併せてご家族等への支援を含め、安心して利用してもらえるよう関係づくりを大事に伴走して進めます。

重点実施事項

- ① 社会参加の足掛かりとして、地域でのフィールドワークを増やし、自己有用感を感じられる機会を大切に進めます。
- ② 自立相談支援や地域包括体制関係、障がい相談支援事業者など、重層体制関係者と連携を密に進めます。
- ③ 地域の働く担い手となるため、企業や個人事業主など就労環境の開拓、連携に努めます。
- ④ 生活困窮者やひきこもりの方の地域理解を推進するため、事業やケース事例の発信に努めます。（文責：高田）

《地域交流推進事業》

1. 地域交流センター及び地域交流室の活用

これまでと同様に、青葉会、くろゆり会、メンボラ ToMo の会等の活動の拠点として、各行事や会議等で恒常的に利用されている。

2. ボランティアに関すること

メンボラ ToMo の会によるなごみの郷利用者を対象とした諸活動について、令和7年度メンボラ ToMo の会事業報告書から抜粋して報告する。

1) なごみの郷各事業所への訪問活動

- ・なごみの郷本部、くろゆり、山口分場を訪問し、アレンジフラワー、コラージュ、及びレクリエーション等を行い、利用者・スタッフと交流した。
- ・その他、年末には、毎年行っている干支の型抜きアート作りを、なごみの郷本部とくろゆりにおいて行った。

2) ふれあい交流活動

- ・味噌づくり・味噌開き：2月に利用者・スタッフと共に味噌づくりを行い、10月に味噌開きを行った。
- ・ほっとサロン：なごみの郷本部において毎月（土曜日）行った。茶話会のような形で、さまざまな内容の話を聴かせてもらい、歌を歌うことも多くあった。

3) くろゆりフードロス支援

- ・くろゆりが行っているフードパントリー活動（毎月第1日曜日）への支援を、年間を通して継続的に行った。利用者と共に、袋詰め作業等の開催準備を行った。

3. 第24回なごみ祭

令和7年度のなごみ祭は、『つなごう みんなの心の輪と和』をテーマに6月7日に開催した。なごみの郷の理念にある「利用者、家族、ボランティア、地域住民が一体となれる場」となるよう、集ったみんなが一堂に楽しめる新しい出し物を数多く企画した。

メインイベントのいしかわズービックのステージでは、馴染みの曲に合わせて踊ったり、手作りのマツケンサンバ棒でリズムをとったりと老若男女問わず盛り上がった。飲食ブースでは、メンボラ ToMo の会の大豆ごはん、松寿園ドレミの焼きそば、愛ラボキッチンのトマトカレー、○和笑（わわわ）の焼きまんじゅうの他、初めて能美市国際交流協会のみなさまにも出店していただき、多くの事業所の協力を得て来場者をもてなすことができた。

メンボラ ToMo の会・小松能美地区精神障害者くろゆり会・青葉会・メンバーボランティア・公立小松大学生ボランティア・小松大谷高校生ボランティアの皆さまには、祭の運営にあたり準備から片付けまでもご協力いただき、ありがとうございました。

Ⅲ 令和7年度の決算状況

1. 資金収支計算書

第一号第一様式 (第十七条第四項関係)

法人単位資金収支計算書

(自) 令和7年4月1日 (至) 令和8年3月31日

社会福祉法人 なごみの郷

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	就労支援事業収入	13,000,000	14,447,712	△ 1,447,712	
	障害福祉サービス等事業収入	185,781,000	191,147,506	△ 5,366,506	
	経常経費寄附金収入	50,000	50,000	0	
	受取利息配当金収入	53,000	97,793	△ 44,793	
	その他の収入	956,000	1,102,669	△ 146,669	
	事業活動収入計(1)	199,840,000	206,845,680	△ 7,005,680	
	人件費支出	137,568,000	135,360,802	2,207,198	
	事業費支出	14,231,000	12,330,919	1,900,081	
	事務費支出	28,023,000	25,616,606	2,406,394	
	就労支援事業支出	13,000,000	14,522,352	△ 1,522,352	
施設整備等による収支	支払利息支出				
	事業活動支出計(2)	192,822,000	187,830,679	4,991,321	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	7,018,000	19,015,001	△ 11,997,001	
	施設整備等補助金収入				
	設備資金借入金収入				
	固定資産売却収入				
	その他の施設整備等による収入	120,000	112,000	8,000	
	施設整備等収入計(4)	120,000	112,000	8,000	
	設備資金借入金元金償還支出	1,800,000	1,800,000	0	
	固定資産取得支出	1,710,000	1,525,500	184,500	
その他の活動による収支	固定資産除却・廃棄支出				
	その他の施設整備等による支出				
	施設整備等支出計(5)	3,510,000	3,325,500	184,500	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 3,390,000	△ 3,213,500	△ 176,500	
	その他の活動による収入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	積立資産支出				
	その他の活動による支出	120,000	112,000	8,000	
	その他の活動支出計(8)	120,000	112,000	8,000	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 120,000	△ 112,000	△ 8,000	
予備費支出(10)		0		0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		3,508,000	15,689,501	△ 12,181,501	
前期末支払資金残高(12)		74,646,969	74,646,969	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		78,154,969	90,336,470	△ 12,181,501	

2. 事業活動計算書

第二号第一様式 (第二十三条第四項関係)

法人単位事業活動計算書

(自) 令和 7年 4月 1日 (至) 令和 8年 3月31日

社会福祉法人 なごみの郷

(単位: 円)

勘 定 科 目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) - (B)
サ ー ビ ス 活 動 増 減 の 部	収 益	就労支援事業収益	14,447,712	18,413,753	△ 3,966,041
		障害福祉サービス等事業収益	191,147,506	173,005,306	18,142,200
		経常経費寄附金収益	50,000	105,000	△ 55,000
		サービス活動収益計 (1)	205,645,218	191,524,059	14,121,159
	費 用	人件費	135,304,335	126,978,397	8,325,938
		事業費	12,330,919	13,886,248	△ 1,555,329
		事務費	25,616,606	25,710,058	△ 93,452
		就労支援事業費用	14,555,070	18,783,097	△ 4,228,027
		減価償却費	10,784,151	9,772,901	1,011,250
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 1,830,215	△ 1,311,319	△ 518,896
サービス活動費用計 (2)		196,760,866	193,819,382	2,941,484	
サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)		8,884,352	△ 2,295,323	11,179,675	
サ ー ビ ス 活 動 外	収	受取利息配当金収益	97,793	35,992	61,801
		その他のサービス活動外収益	1,102,669	1,076,863	25,806
		サービス活動外収益計 (4)	1,200,462	1,112,855	87,607
	活 動 外	支払利息			
		その他のサービス活動外費用			
		サービス活動外費用計 (5)	0	0	0
	サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)		1,200,462	1,112,855	87,607
経常増減差額 (7)=(3)+(6)		10,084,814	△ 1,182,468	11,267,282	
特 別 増 減 の 部	収 益	施設整備等補助金収益		21,792,000	△ 21,792,000
		固定資産受贈額		4,701,209	△ 4,701,209
		固定資産売却益			
		その他の特別収益			
	特別収益計 (8)		0	26,493,209	△ 26,493,209
	費 用	基本金組入額		4,701,209	△ 4,701,209
		固定資産売却損・処分損	3	3	0
		国庫補助金等特別積立金積立額		21,792,000	△ 21,792,000
		特別費用計 (9)	3	26,493,212	△ 26,493,209
	特別増減差額 (10)=(8)-(9)		△ 3	△ 3	0
当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)		10,084,811	△ 1,182,471	11,267,282	
繰 越 額 の 活 動 部 増 減	前期繰越活動増減差額 (12)		124,352,481	125,534,952	△ 1,182,471
	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)		134,437,292	124,352,481	10,084,811
	基本金取崩額 (14)		0	0	0
	その他の積立金取崩額 (15)		0	0	0
	その他の積立金積立額 (16)		0	0	0
	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)		134,437,292	124,352,481	10,084,811

3. 貸借対照表

法人単位貸借対照表

令和 8年 3月31日現在

第三号第一様式 (第二十七条第四項関係)

社会福祉法人 なごみの郷

(単位：円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
勘 定 科 目	当年度末	前年度末	増 減	勘 定 科 目	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	93,347,866	78,743,717	14,604,149	流動負債	6,568,202	9,477,303	△ 2,909,101
現金預金	51,034,751	22,613,422	28,421,329	短期運営資金借入金			
現金	262,711	269,667	△ 6,956	事業未払金	2,903,180	3,377,378	△ 474,198
預金	50,772,040	22,343,755	28,428,285	その他の未払金			
事業未収金	38,870,812	31,100,187	7,770,625	1年以内返済予定設備資金借入金		1,800,000	△ 1,800,000
未収補助金	1,009,234	22,846,441	△ 21,837,207	預り金	178,048	239,387	△ 61,339
商品・製品	62,800	49,020	13,780	職員預り金	△ 529,097		△ 529,097
仕掛品	36,119	45,739	△ 9,620	仮受金	15,000	3,000	12,000
原材料	345,346	382,224	△ 36,878	賞与引当金	4,001,071	4,057,538	△ 56,467
前払費用	1,988,804	1,706,684	282,120	その他の流動負債			
その他の流動資産				固定負債	780,000	780,000	0
固定資産	92,131,318	101,389,972	△ 9,258,654	設備資金借入金			
基本財産	81,496,051	88,486,932	△ 6,990,881	長期運営資金借入金			
土地	13,198,574	13,198,574	0	リース債務			
建物	321,745,781	321,745,781	0	前受収益			
減価償却累計額	△ 254,448,304	△ 247,457,423	△ 6,990,881	長期未払金			
定期預金	1,000,000	1,000,000	0	長期預り金	780,000	780,000	0
その他の固定資産	10,635,267	12,903,040	△ 2,267,773	その他の固定負債			
土地				負 債 の 部 合 計	7,348,202	10,257,303	△ 2,909,101
建物	17,578,560	17,578,560	0	純 資 産 の 部			
構築物	4,948,500	4,948,500	0	基本金	16,248,084	16,248,084	0
機械及び装置	8,839,350	8,839,350	0	国庫補助金等特別積立金	21,897,905	23,728,120	△ 1,830,215
車輛運搬具	17,197,079	16,458,079	739,000	その他の積立金	5,547,701	5,547,701	0
器具及び備品	14,100,420	13,726,720	373,700	修繕積立金	5,547,701	5,547,701	0
減価償却累計額	△ 57,773,843	△ 54,419,770	△ 3,354,073	次期繰越活動増減差額	134,437,292	124,352,481	10,084,811
権利	164,500	164,500	0	(うち当期活動増減差額)	10,084,811	△ 1,182,471	11,267,282
ソフトウェア	33,000	59,400	△ 26,400				
積立資産	5,547,701	5,547,701	0				
修繕積立資産	5,547,701	5,547,701	0				
その他の固定資産							
				純 資 産 の 部 合 計	178,130,982	169,876,386	8,254,596
資 産 の 部 合 計	185,479,184	180,133,689	5,345,495	負債及び純資産の部合計	185,479,184	180,133,689	5,345,495

IV 各種委員会報告

1. 職場内研修委員会

法人内開催研修

月	日	対象	研修名
5	28	新人職員	新人職員研修
8	26	5年未満職員対象	ざっくばらんに話し合おう
10	17	次長・ サービス管理責任者	事例検討会
11	16	全職員	法人全体研修『障害特性の理解と支援の工夫』
2	13	次長・ サービス管理責任者	事例検討会

今年度は外部講師による研修と階層別研修の実施を重点事項として取り組んだ。中間管理職を対象とした事例検討は、ケースを多角的に理解し支援の質の向上を図るとともに、中間管理職としての個々の役割や課題への意識づけの場となった。新人研修は今年度からフォローアップ研修を導入し、日頃現場では聞きづらい疑問や質問の解消や、支援に関する意見交換の場となり、交流の場としても意義を感じた。

全体研修では外部講師をお招きすることで法人内の視点にとらわれない客観的な見方で研修を行い、活発な意見交換が出来た点は大変好評で、日々の支援を振り返り、自己点検の機会やスキルアップの機会となったとの意見が多く寄せられた。また、コロナ禍から中止となっていた食事交流会として昼食の提供を行ったことで、職員交流、職員同士の横のつながりを持つ機会となり、組織力の向上も同時に深められたと感じた。

次年度はさらに階層別研修の対象者を拡大し、学びや交流を求める職員に対し、正規・非正規に関わらず研鑽の機会を創出できるよう取り組んでいきたい。

(文責：堂前)

2. 虐待防止等委員会

虐待を未然に防止するため、虐待防止及び身体拘束等適正化への対応、方策等を幅広く検討するなど、虐待防止等委員会を5月、10月、3月と3回開催した。また、法人連絡会の中で、各事業所からの報告として虐待案件を報告、協議する場を毎月の議題として取り上げ確認を行った。さらに研修としては、5月に新人職員に向けての研修、2月に全職員対象の研修を実施し、法人全体の虐待防止への意識強化、啓発活動を行った。また各事業所ごとに虐待防止のための実施目標をたて、それぞれ事業所ごとの取り組みも行った。虐待研修や各会議の中でも、利用者の対応に悩む案件が多く、次年度以降の課題として気軽に相談できる体制や場づくり、学ぶ機会の検討が必要と感じられた。

(文責：堂前)

3. 実習

(公立小松大学実習)

公立小松大学の精神保健看護実習の受け入れを令和7年も行った。「対象者を全人的に理解するために、病気や障害に由来する否定的なイメージや偏見を持たずに、人権や権利を尊

重した倫理的な態度で対象者と接する能力を養う。さらに、精神に障がいを持ちながら生活する人々の心身の痛みに共感できる感性を培う。」を目的として、就労支援センターつばさと地域活動センターくろゆりの2事業所にて臨地実習を3日間行った。臨地実習では、利用者との関わりを通して、精神に障がいのある方の地域で生活する上での生活のしづらさや夢や希望などを直接聞くことで学生自身の学びや気づきを多く得ていた。来年度も学生が臨地実習を通して、精神に障がいのある方の理解を深め、多くの気づきを得てもらえるよう取り組んでいきたい。
(文責：瀬戸)

(コマニー（株）新入社員実習研修)

今年度、2年ぶりにコマニー新入社員6名の受け入れを行った。今回は6/11（水）～13（金）の3日、北浅井町のつばさ・グループホーム、不動島町のくろゆり、山口町のはまかぜ山口分場の事業所で各2名ずつ研修を行った。「自ら考えて行動できる力をつけること、ボランティアを通して社会に貢献できることがあることに気づき、今後活かしていくこと」を目的に、各事業所内でのボランティアや利用者と共に作業に取り組んだり、交流を深める等、3日間熱心に取り組んでくれた。研修を通して精神に障がいのある方へのイメージが変わったこと、積極的に社会貢献をしていくことの大切さなどを学んだ等の感想をもらった。新入社員の方が得た気づきを今後活かしていただきたいと思いますし、なごみの郷にとっても新入社員の方の気づきをこれからの支援に活かしていこうと思う。

(文責：瀬戸)

V その他

1. 研修・各種団体会議への出席（令和7年4月～令和8年3月）

月	日	研修・会議名	主 催	出席数
6	6/4～3/6	令和7年度相談支援従事者指導者養成研修会	厚生労働省、こども家庭庁	1
	13	保育所等巡回支援事業	和光幼稚園	1
	21	2025年度石川県相談支援専門員協会定例総会・研修会	石川県相談支援専門員協会	1
	24	保育所等巡回支援事業	和光幼稚園	1
	6/24.25	令和7年度石川県相談支援従事者初任者研修（講義部分）	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
	6/24～12/3	令和7年度発達障害者等相談支援従事者育成研修（専門研修）	石川県発達障害者支援センター	1
	6/28.29	令和7年度障害者施設職員基礎研修会～障害を理解し、より良い支援の提供を目指す～（オンライン研修）	全国障害者総合福祉センター（戸山サナライズ）	1
7	7/8～8/5	令和7年度石川県サービス管理責任者等基礎研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
	7/9.17	令和7年度石川県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
8	4	保育所等巡回支援事業	和光幼稚園	1

	8/19. 20	令和 7 年度障害施設中堅職員研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
	8/27. 28	福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程初任者研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
9	2	保育所等巡回支援事業	和光幼稚園	1
	5	ボン菓子製造見学体験	黒酢ボン菓子本舗	2
10	10/2～12/23	令和 7 年度相談支援従事者現任研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
	10	保育所等巡回支援事業	和光幼稚園	1
	21	食品衛生責任者研修会	小松能美食品衛生事務局	1
	27	令和 7 年度感染症予防研修会	石川県南加賀保健福祉センター	2
	10/28. 29	令和 7 年度石川県医療的ケア児等指導者養成研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
	10/30. 31	令和 7 年度石川県サービス管理責任者等更新研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
11	11/6～12/3	令和 7 年度石主任相談支援専門員養成研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	2
	11/12. 13	令和 7 年度石川県サービス管理責任者等更新研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	2
	11/26. 27	生活困窮者自立支援制度人材養成研修（厚生労働省委託事業）令和 7 年度就労支援員・就労準備支援事業支援員初任者研修	社会福祉法人全国社会福祉協議会	1
12	8	第 1 回のみ社会福祉法人連絡会研修会	社会福祉法人能美市社会福祉協議会	2
	11	令和 7 年度石川県障害者虐待防止・権利擁護研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
	12/11～1/29	令和 7 年度石川県高次脳機能障害支援養成研修	石川県高次脳機能障害者相談・支援センター	2
	12/15. 16	令和 7 年度石川県医療的ケア児等コーディネーター養成研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
2	2/17. 18	令和 7 年度精神障害者支援の障害特性と支援技術を学ぶ研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
	2/21～3/16	第 2 回のみ社会福祉法人連絡会研修会	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1

2. 関連団体への参加

令和 8 年 4 月 1 日現在

氏 名	関係団体	職 名
北岡理事長	小松市自立支援協議会 能美市地域自立支援協議会 のみ社会福祉法人連絡会	委 員 委 員 副会長
高田所長	小松市社会福祉協議会 能美市社会福祉協議会 第四次能美市地域福祉活動計画委員会 のみ社会福祉法人連絡会 ・ 幹事会 ・ 研修専門委員会 能美市地域自立支援協議会通所事業所連絡会	評議員 監 事 委 員 幹 事 委 員 委 員

瀬戸本部部長	小松市くらし安心ネットワーク協議会 ・いのちと心の部会	委 員
中村支援部部長	のみ社会福祉法人連絡会 ・ふれあい弁当にかかる専門委員会	委 員
堂前支援部次長	能美市障害者自立支援協議会 ・コア会議 ・運営委員会 ・相談支援事業所連絡会 ・事業所連絡会通所系 石川県相談支援専門員協会 研修企画 相談支援従事者研修現任者研修 メモリーケアネットワーク 石川県災害福祉派遣チーム	委 員 委 員 委 員 事務局 企画委員 企画委員 委 員 会 員
南出 真里江	小松市障害者自立支援協議会 就労連絡会	委 員
山崎 菊代	南加賀就労支援強化連絡会 ネットワーク委員会	委 員
北島 千裕	南加賀就労支援強化連絡会 クローバー委員会	委 員
富樫 尚子	小松市障害者自立支援協議会 生活支援連絡会	委 員
松本 里絵	小松市ひきこもり等支援連絡会 夢や運営委員会	事務局 委 員
三宅 奈津子	小松市障害者自立支援協議会 生活支援連絡会	委 員
中西 雅恵	小松市障害者自立支援協議会 ・相談支援事業所連絡会 ・地域生活支援拠点等検討部会 ・精神障がい者等地域生活支援検討部会 ・医療的ケア児等コーディネーター連絡会	委 員 委 員 委 員 委 員
西本 美由紀	小松市障害者自立支援協議会 ・事務局会議 ・相談支援事業所連絡会 小松市ひきこもり等支援連絡会	委 員 委 員 事務局
土山 信英	小松市障害者自立支援協議会 ・相談支援事業所連絡会 ・医療的ケア児等コーディネーター連絡会	委 員 委 員
金谷 葉月	石川県精神保健福祉士会教育研修委員 サービス管理責任者等養成研修企画委員 能美市自立支援協議会 ・相談事業所連絡会	委 員 ファシリテーター 事務局

3. なごみの郷苦情解決第三者委員
令和7年度活動報告

月	訪問先	訪問内容	相談形式		苦情 BOX	電話	スタッフ 相談
4	なごみ	通常訪問	グループ	2			
5	くろゆり	通常訪問	グループ	6			
6	はまかぜ	通常訪問	グループ	6			
7	山口分場	通常訪問	グループ	2		3	
8	なごみ	通常訪問	グループ 個別	3		13	
9	くろゆり	通常訪問	グループ	11	1	5	
10	はまかぜ	通常訪問	グループ	6		4	
11	山口分場	通常訪問	グループ	1			
12	なごみ	通常訪問	グループ	4		2	
1	くろゆり	通常訪問	グループ	12		1	
2	はまかぜ	通常訪問	グループ	6		3	
3	山口分場	通常訪問	グループ	1		7	
合計				60	1	38	

<今年度の活動と次年度の展望>

- ・平成17年度（2005）以降、今年度で21年目の活動となった。活動を継続した。
- ・令和7年度（2025）は、苦情解決第三者委員である相上律子、飯田清美で活動を行った。
- ・苦情処理に関するフローチャートに沿って対応したが、公的な苦情はなかった。
- ・なごみ、くろゆり、はまかぜ、山口分場への定期訪問を行った。
山口分場とはまかぜは希望者のみが集まってのグループ相談、くろゆりはプログラムに組み込まれた活動、なごみは利用者による任意に応じる形式で行った。くろゆりとはまかぜでの活動が活発であった。
- ・特定の利用者との電話対応が頻回にあったが、苦情に至る内容ではなかった。
- ・訪問のキャンセルは1回もなく、年間を通して通常訪問ができた。
- ・次年度も、施設側の委嘱に応じて、同様の活動を継続し、施設が提供するサービスの向上・充実に貢献していく。

（文責：苦情解決第三者委員 相上律子）

令和 7 年度事業実績及び

令和 8 年度に向けて

発 行 社会福祉法人なごみの郷
理事長 北岡 和代

発行日 令和 8 年 6 月 30 日

編 集 社会福祉法人なごみの郷
〒923-0851
石川県小松市北浅井町 123 番地
TEL(0761)23-7232 FAX(0761)23-7284

印 刷 能美地域活動センター
はまかぜ
